

2019年度まちづくりネットモニター第5回調査結果 テーマ「第三次郡山市食育推進計画について」

「食育」とは、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。

本市においては、市民一人ひとりが「食」に関する正しい知識を身に付け、生涯にわたる健全な食生活の実践ができることを目的に「第三次郡山市食育推進計画」（2018～2022年度）を定め数値目標を設定しております。

今回のネットモニターでは、市民の健康に対する意識や実態を把握するとともに、本計画に基づく数値目標の達成状況の確認や評価等の参考にさせていただくためアンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。

(地域保健課)

調査概要

- ・調査期間 令和元年6月17日(月)～6月26日(水) (10日間)
- ・回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- ・モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- ・回答者数 331名 (男性 152名 女性 179名)
- ・回答率 91.9%

【分析】

○回答者内訳 (人)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	全体
男性	4	5	15	32	30	21	38	7	152
女性	3	9	45	70	36	14	2	0	179
合計	7	14	60	102	66	35	40	7	331

○食育の認知度

『食育』について、「知っている」と回答した方が75.8% (251人)、「知らない」が24.2% (80人)であった。

前回 (H30年度、以下同じ) 調査では「知っている」の回答が96.2%で、今回20.4ポイント減少した。

○バランスの良い食事(主食・主菜・副菜がそろう食事)について

バランスのよい食事が「1日2食以上」と回答した方が61.4% (203人)、「1日1食以下」が38.6% (128人)であった。

前回調査では「1日2食以上」の回答が51.5%で、今回9.9ポイント増加した。

○メタボリックシンドロームの予防・改善に取り組んでいる方

『メタボリックシンドローム』について「知っている」と回答した方が97.3% (322人)で、うち予防や改善に「取り組んでいる」が62.5% (201人)、「取り組んでいない」が36.6% (118人)であった。

前回調査では「取り組んでいる」の回答が63.8%で、今回1.3ポイント減少した。

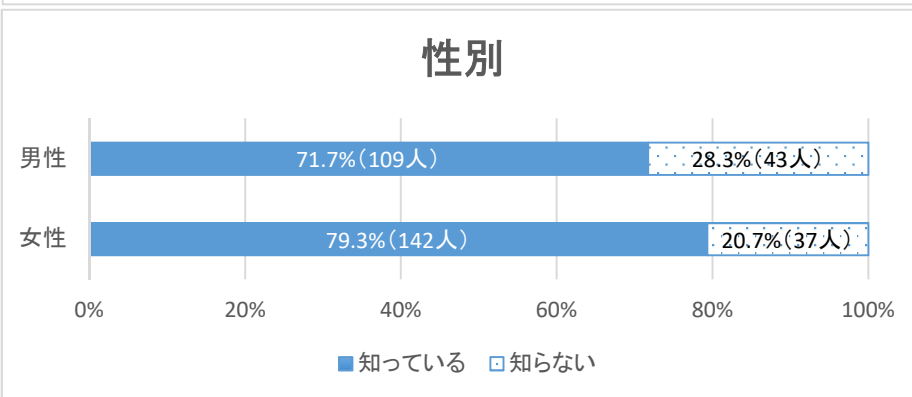
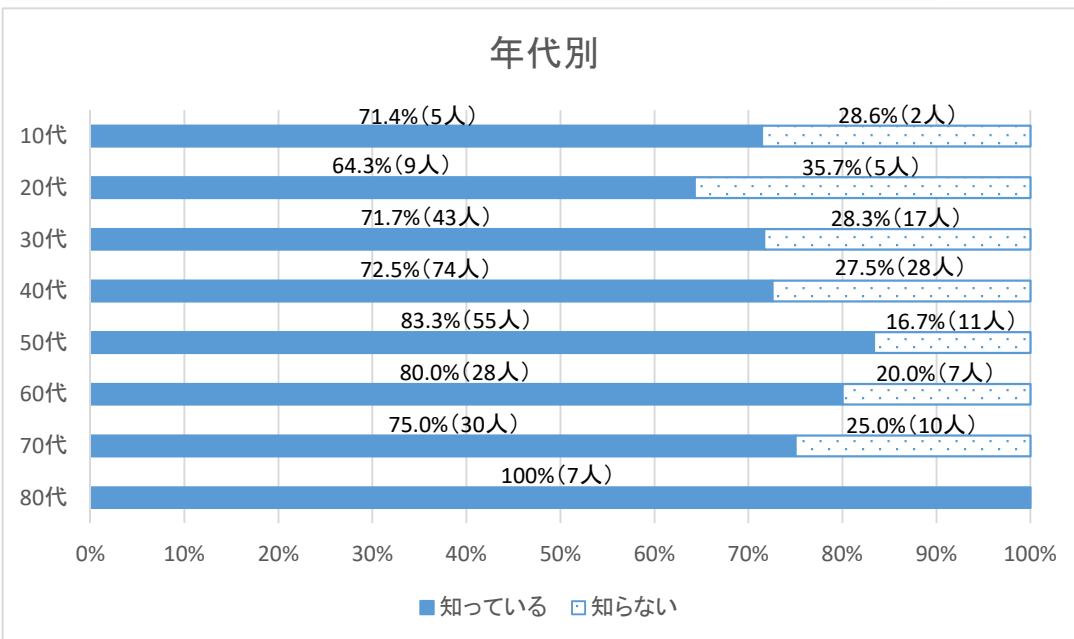
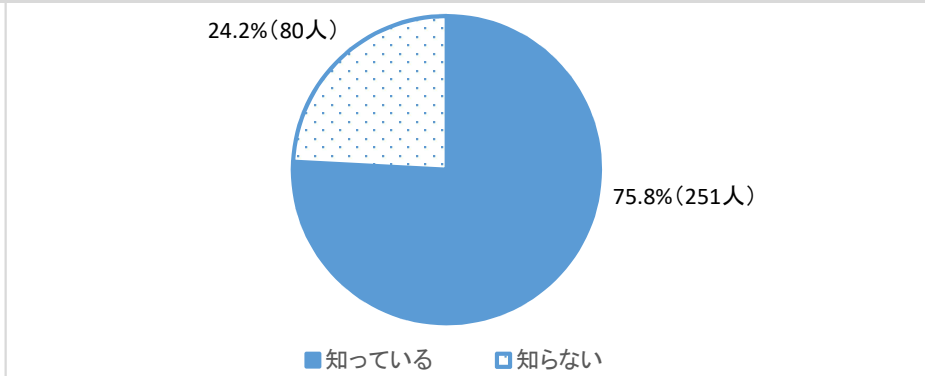
【考察】

- ・「食育」という言葉を知らない方が各年代で一定程度いること、さらに前回調査結果と大きな差がみられたことから、全年代を対象にさらなる周知の必要性が伺える。
- ・本アンケートは経年的に実施しているが、前年度の結果と比較すると、「食育の認知度」及び「適正体重の認識」について大幅な減少がみられた。これについては、本年度新たに専門用語への注釈を加えたことが一因と考えられるため、今後は用語理解を深めるための周知が必要である。
- ・「メタボリックシンドローム」の認知度は高いが、予防・改善に取り組んでいると回答した方は6割程度であった。そのことから、さらなる周知・啓発が必要であり、予防や改善のための取り組みにつながる様な働きかけが必要である。また、バランスの良い食事や栄養成分表示の活用、おやつとの与え方等の取り組み状況が6～7割程度であったことから、食生活の適正な取組みを促すための具体的な内容を周知することが必要である。

第1章 認知度について

問1 6月は「食育月間」、毎月19日は「食育の日」です。
「食育」という言葉をご存知ですか？（1つ選択）

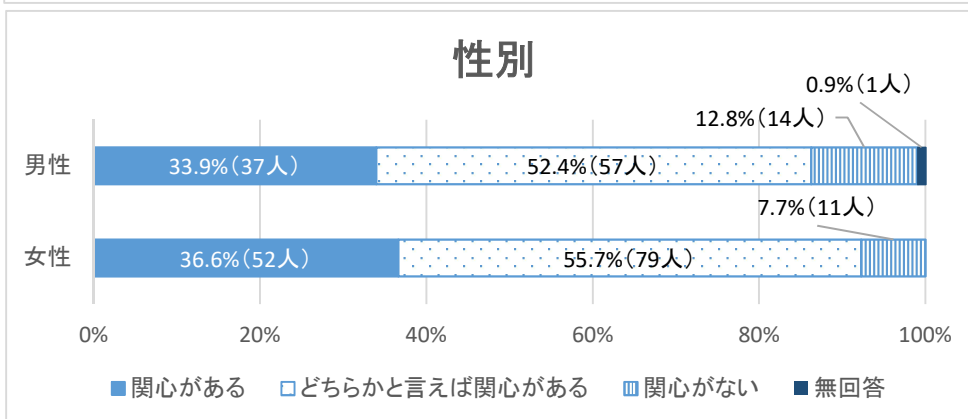
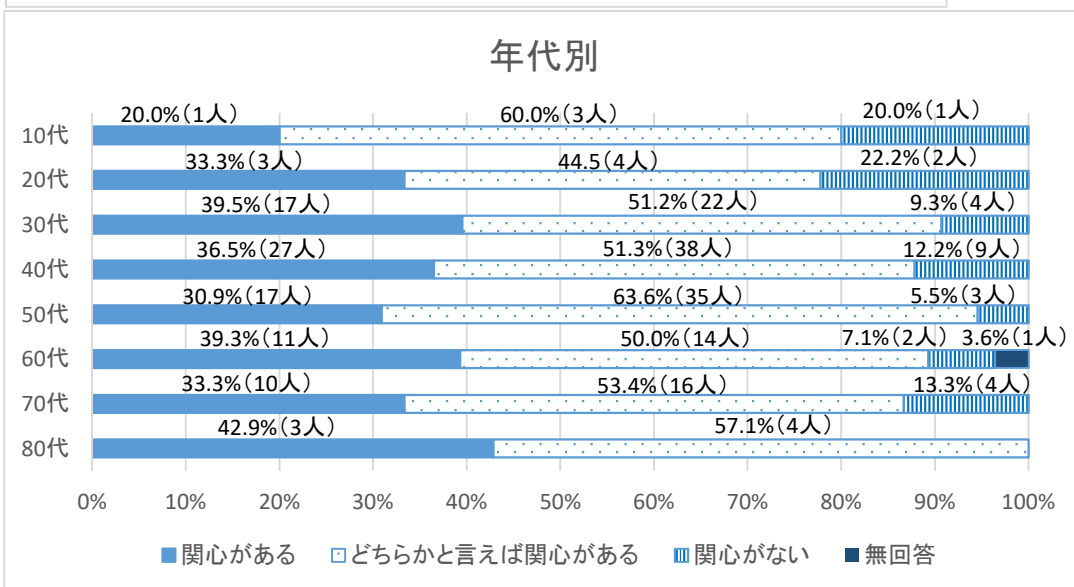
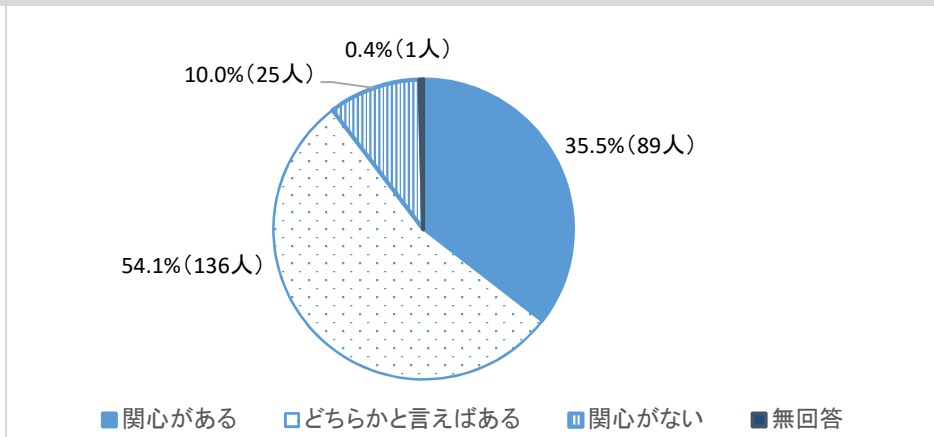
（回答者：331人）



「食育」の認知度について、全体の75.8%が「知っている」と回答した。
年代別では、80代の100%が最も高く、10～70代では約20～30%の方が「知らない」と回答した。中でも10～40代の若い世代での認知度が低い。
性別では、男性の認知度が女性より7.7ポイント高い。
前回調査では「知っている」の回答が96.2%で、今回20.4ポイント減少した。
今回調査で設問に「食育の日・食育月間」の文言を記載したため、「知っている」と回答した方が減少したと考えられる。

問2 問1で「知っている」を選択した方にお尋ねします。
「食育」に関心がありますか？（1つ選択）

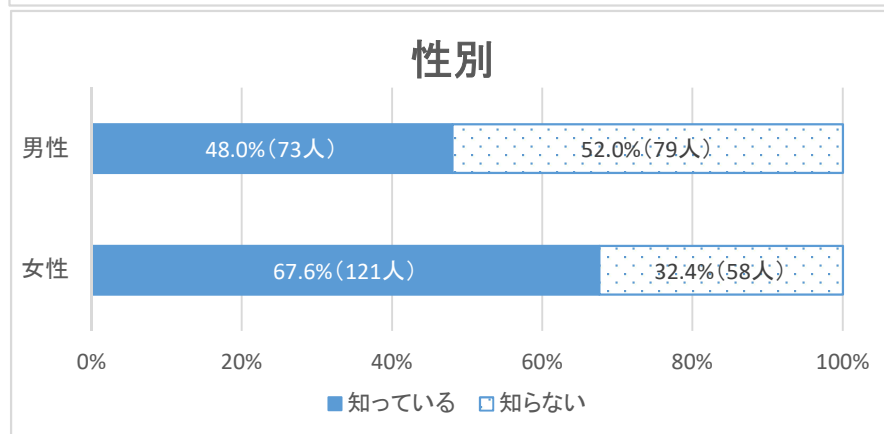
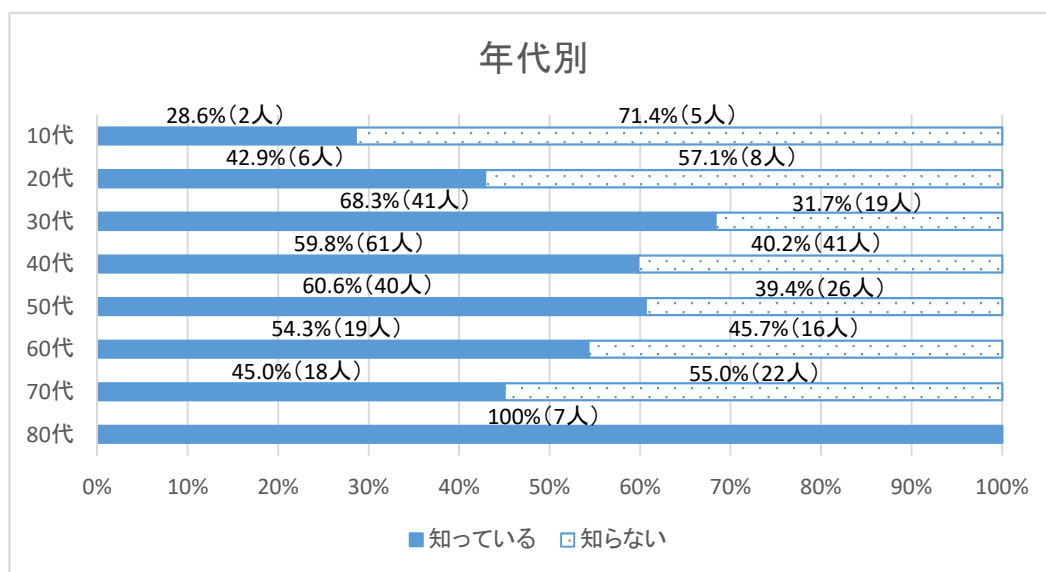
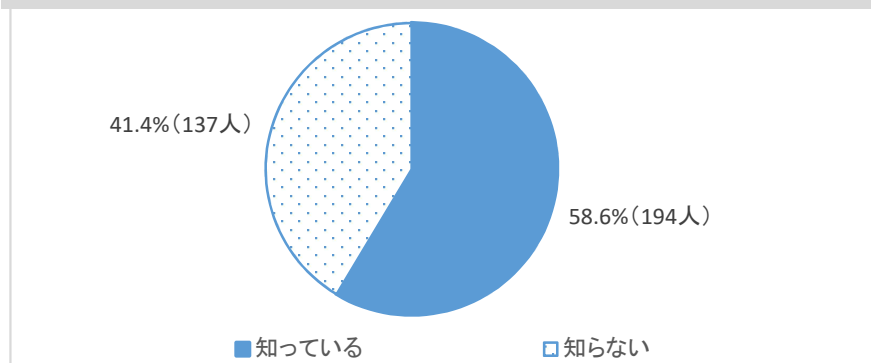
（回答者：251人）



問1で「知っている」と回答した方のうち、「食育」に関心がある方については、全体の89.6%の方が「関心がある」「どちらかと言えばある」と回答した。
年代別では、「関心がある」「どちらかと言えばある」と回答した方が、80代の100%が最も高く、30代～70代で約90%程度となっている。さらに、10代・20代では約80%程度であり、全年代の中で低い値を示した。
性別では、「関心がある」「どちらかと言えばある」と回答した方が、女性が男性より6.0ポイント高い。
前回調査では「関心がある」「どちらかと言えばある」の回答が91.8%で、今回2.2ポイント減少した。

問3 「食事バランスガイド(※)」をご存知ですか？(1つ選択)
 ※1日に「何を」「どれだけ」食べればよいのか料理ごとに区分し、
 コマのイラストで示したもの。

(回答者：331人)



「食事バランスガイド」の認知度について、全体の58.6%が「知っている」と回答した。

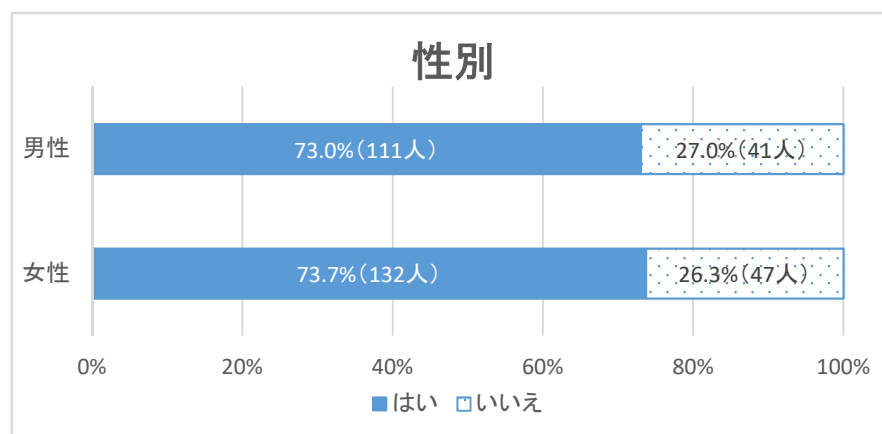
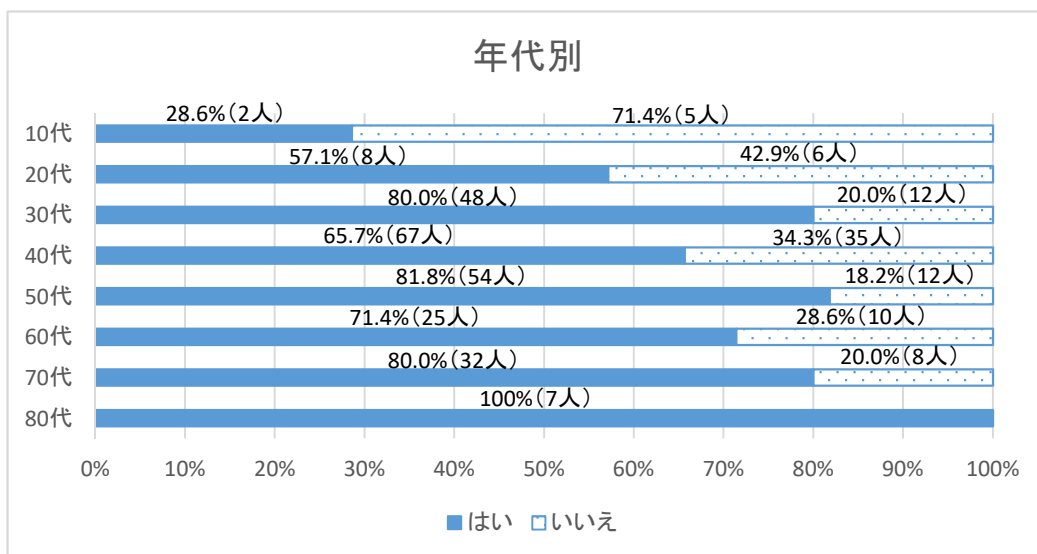
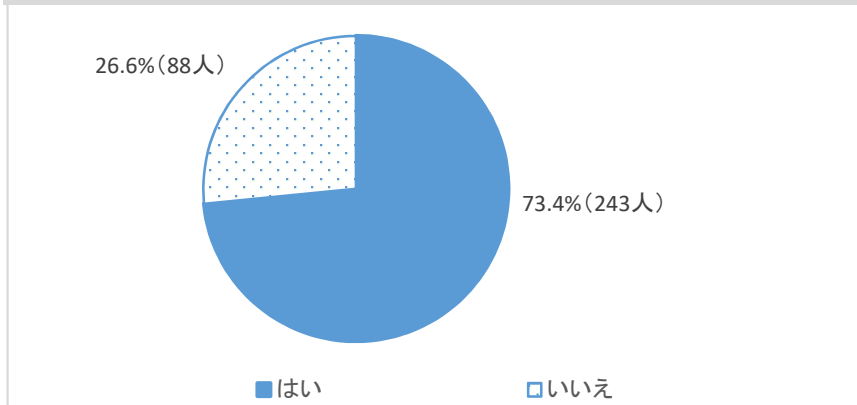
年代別では、「知っている」と回答した方が80代の100%で最も高く、10代の28.6%で最も低い値を示した。また、10代～70代では、「知らない」と回答した方が30～70%程度と年代により差がみられた。

性別では、女性の認知度が男性より19.6ポイント高い。

前回調査では「知っている」の回答が53.3%で、今回5.3ポイント増加した。

問4 自分の適正体重（※）を認識していますか？（1つ選択）
 ※身長（m）×身長（m）×22で算出される値

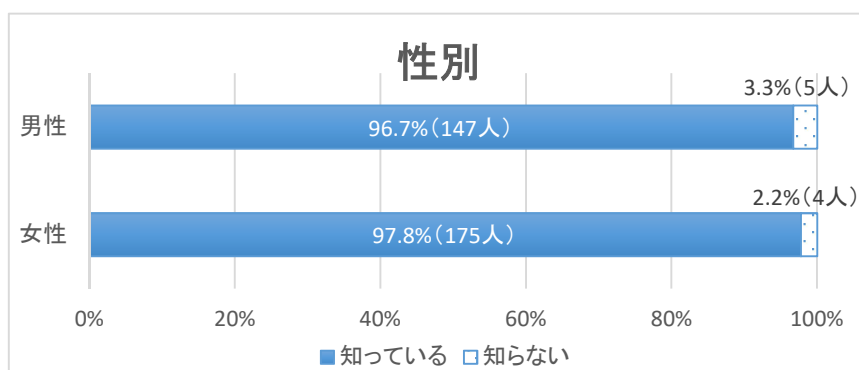
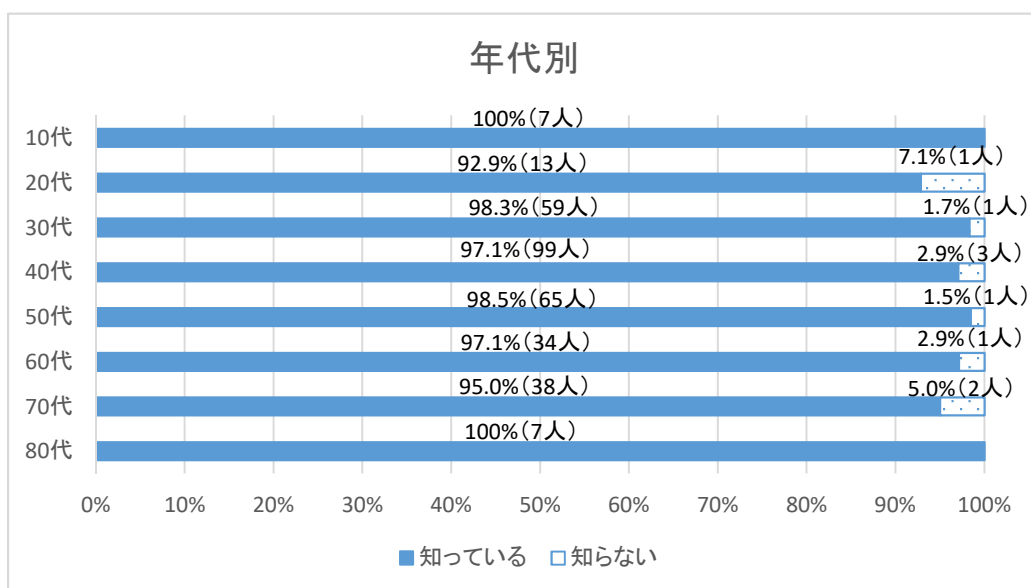
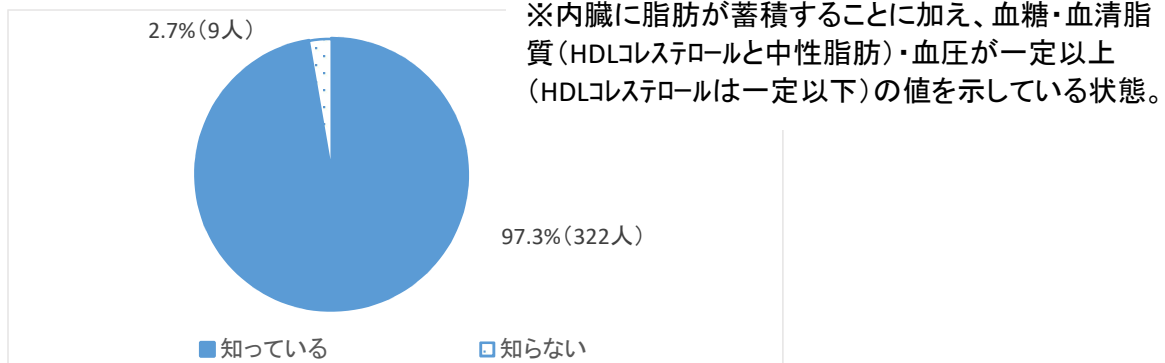
（回答者：331人）



「適正体重」を認識しているかについて、全体の73.4%が「はい」と回答した。
 年代別では、「認識している」と回答した方が80代の100%で最も高く、10代の28.6%で最も低い値を示した。また、20代～70代では、約60～80%の方が「認識している」と回答した。
 性別では、女性の認知度が男性より0.7ポイント高い。
 前回調査では「認識している」の回答が91.4%で、今回18.0ポイント減少した。

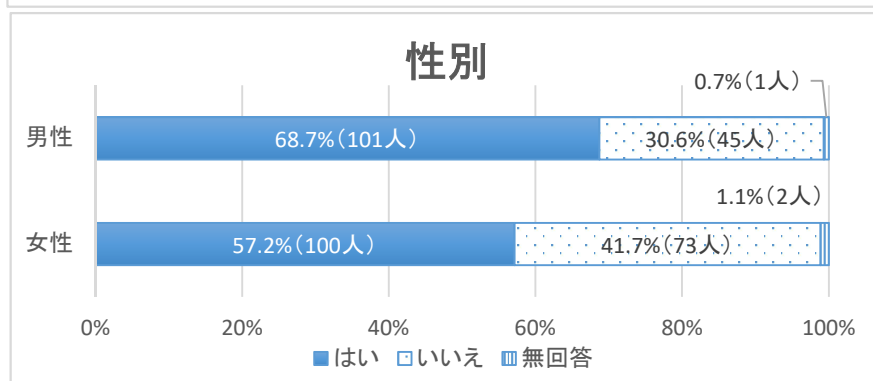
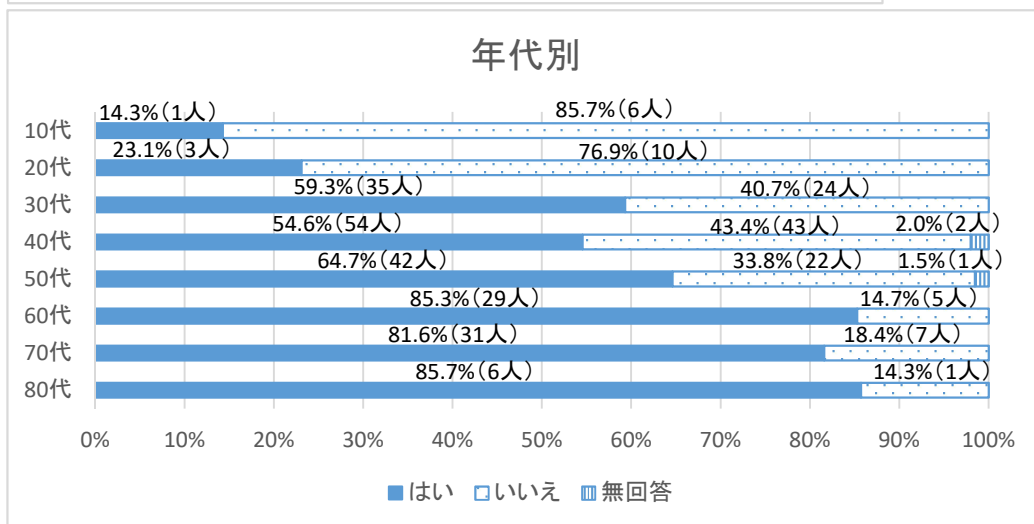
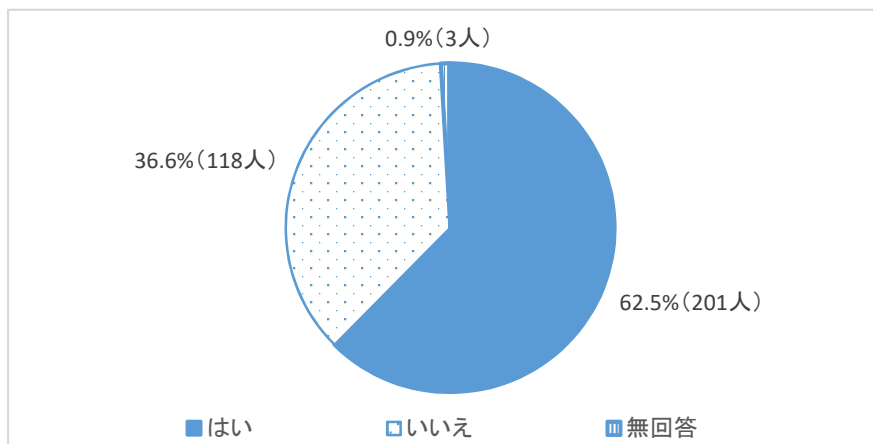
問5 「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）（※）」をご存知ですか？
（1つ選択）

（回答者：331人）



「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」の認知度について、全体の97.3%が「知っている」と回答した。
年代別では、「知っている」と回答した方が10代・80代の100%で最も高く、全年代で90%以上の方が「知っている」と回答した。
性別では、女性の認知度が男性より1.1ポイント高い。
前回調査では「知っている」の回答が98.6%で、今回1.3ポイント減少した。

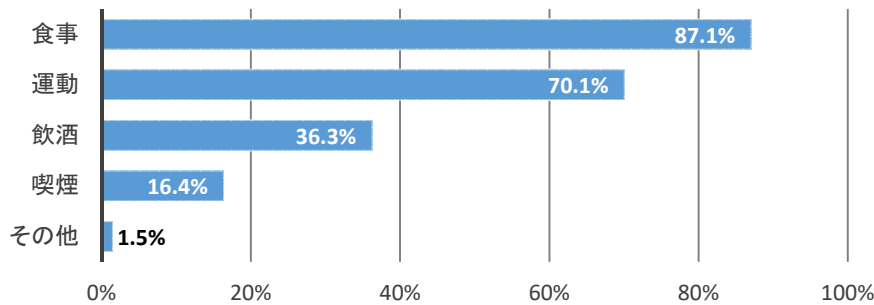
問6 問5で「知っている」を選択した方にお尋ねします。
 「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」の予防や改善のために取り組んでいることはありますか？（1つ選択）
 （回答者：322人）



「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」を「知っている」と回答した方で、予防や改善のために取り組んでいる人は62.5%であった。
 年代別では、80代の85.7%で最も高く、60代から80代では80%以上の方が、30代～50代では50～60%の方が予防や改善に取り組んでいると回答した。
 性別では、予防や改善に取り組む方は、男性が女性より11.5ポイント高い。
 前回調査では「取り組んでいる」の回答が63.8%で、今回1.3ポイント減少した。
 高い認知度に対し、予防や改善に取り組む人が6割程度であることから、食生活の適正な取り組みの更なる周知・啓発が必要である。

問7 問6で「はい」を選択した方にお尋ねします。
 取り組みの具体的な内容は何ですか？（複数回答可）

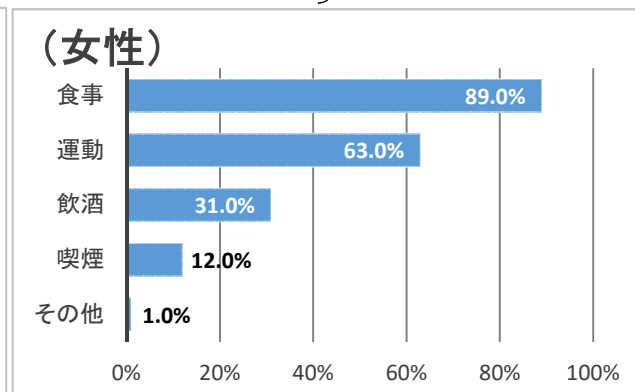
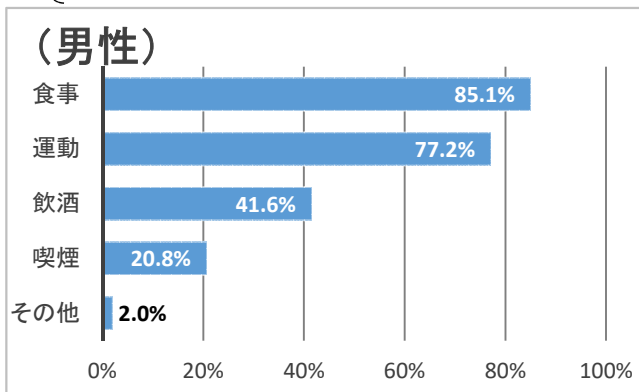
（回答者：201人）



選択肢	回答数
食事	175
運動	141
飲酒	73
喫煙	33
その他	3

※「その他」を選択した方の意見

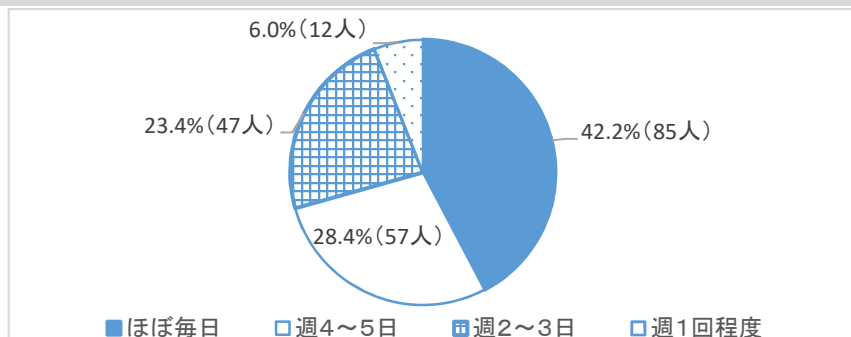
- ・ストレスを溜めないように、趣味を笑って楽しむ習慣をもつ
- ・炭水化物の制限
- ・早寝早起き



「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」の予防や改善のために取り組んでいる人の具体的な取り組み内容は、食事の87.1%が最も高く、次いで運動の70.1%であった。性別では、男性においては食事の85.1%、女性においては食事の89.0%が最も高く、男性・女性共に「食事」への関心が高い。

問8 問6で「はい」を選択した方にお尋ねします。
 どのくらいの頻度で取り組んでいますか？（1つ選択）

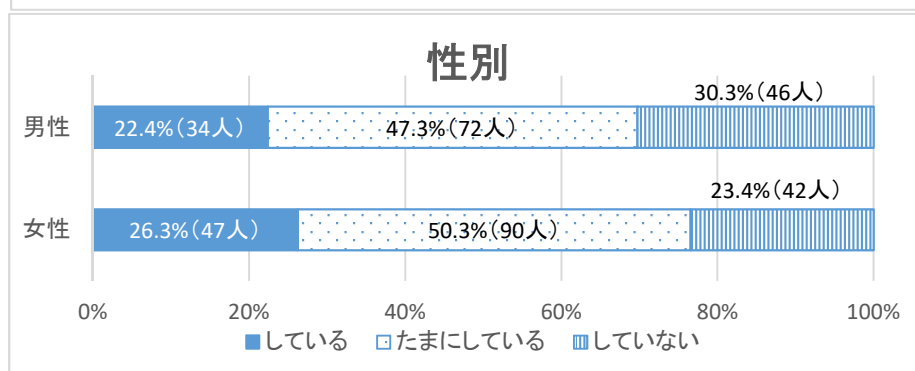
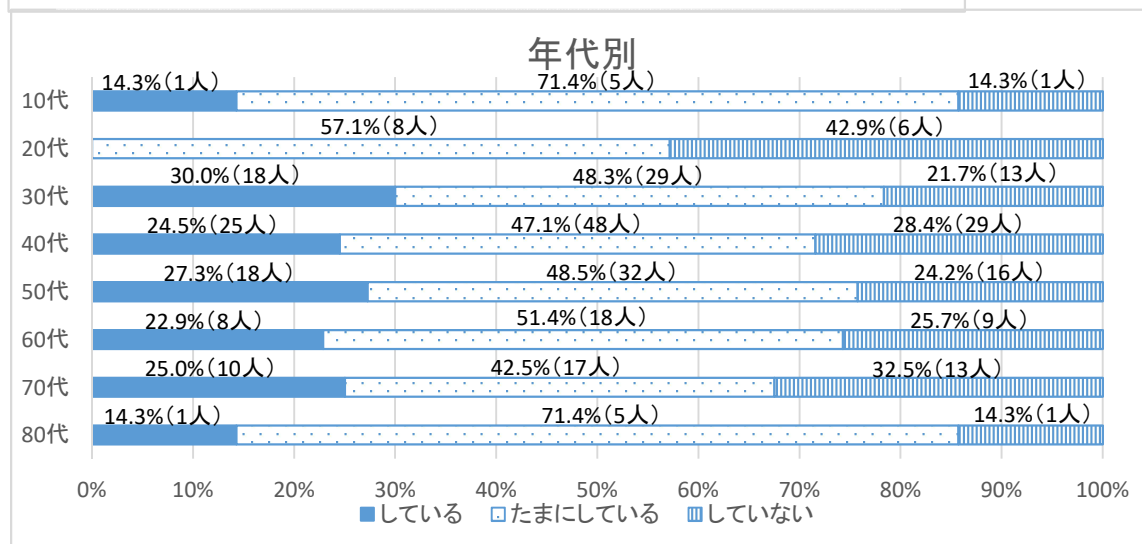
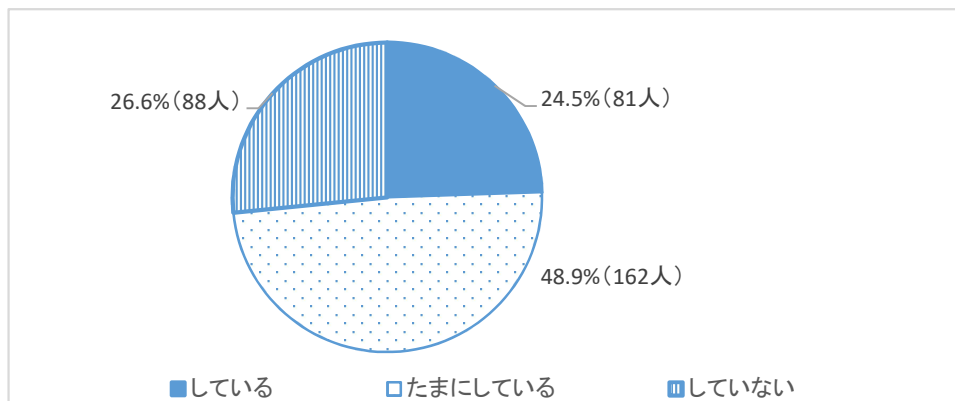
（回答者：201人）



「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」の予防や改善のために取り組んでいる人の取り組み頻度は、全体では「ほぼ毎日」の42.2%が最も高く、次いで「週4~5日」と回答した方が28.4%であった。前回調査では「ほぼ毎日」の回答が36.6%で、今回5.6ポイント増加した。また、「週4~5日」の回答は24.6%で、今回3.8ポイント増加した。

第2章 食習慣について

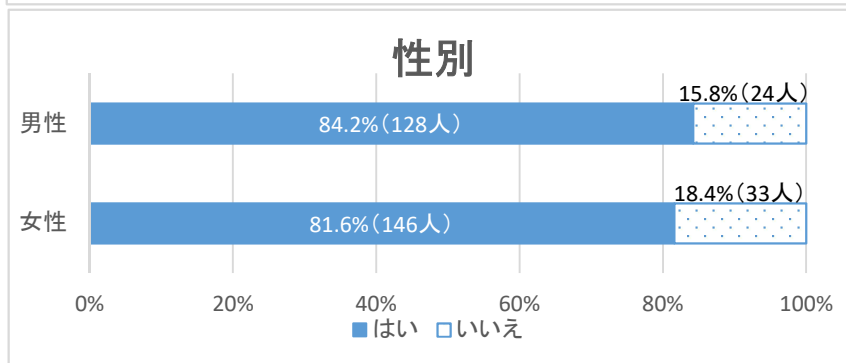
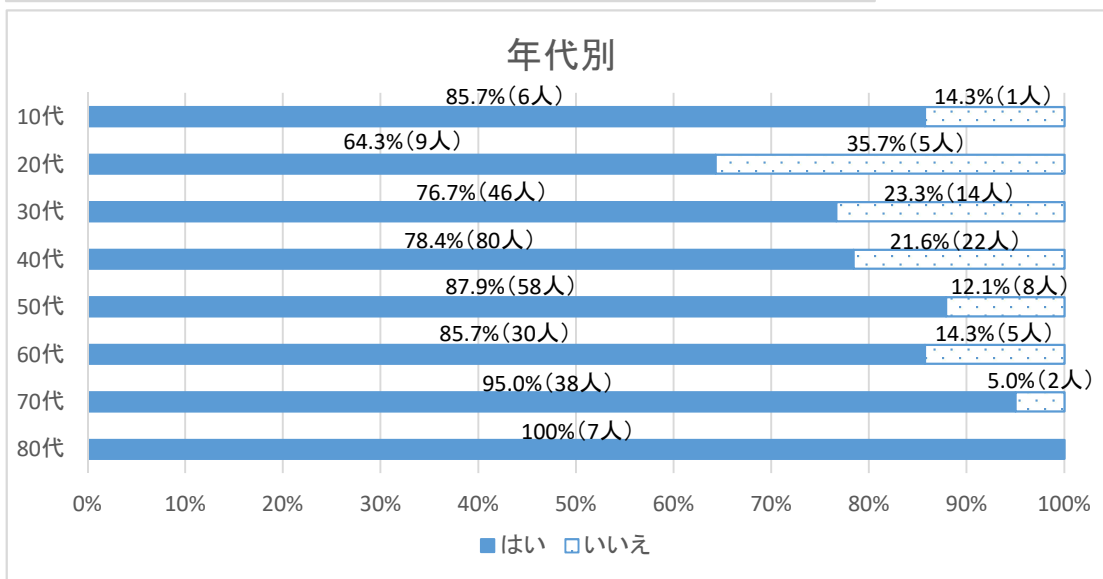
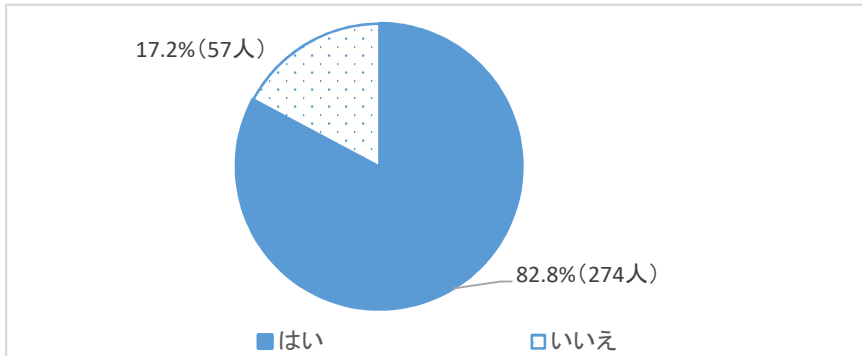
問9 外食や食品購入時に栄養成分表示(※)を参考にしていますか？(1つ選択)
 ※食品に含まれる熱量(エネルギー)や栄養成分(たんぱく質、脂質、炭水化物など)の量を表示したもの。
 (回答者：331人)



栄養成分表示について、参考に「している」と回答した方が全体の24.5%、「たまにしている」と回答した方が48.9%で、併せると73.4%であった。
 年代別では、参考に「していない」と回答した方は、10代と80代で14.3%で最も低い値であった。30代～70代では20～30%程度であるが、20代は42.9%で最も高い。さらに20代において参考に「している」と回答した方は0%であった。
 性別では、参考に「している・たまにしている」を併せると、女性が男性より6.9ポイント高い。
 前回調査では参考に「している」「たまにしている」の回答が76.6%で、今回3.2ポイント減少した。

問 10 健康維持のための食生活を心がけていますか？（1つ選択）

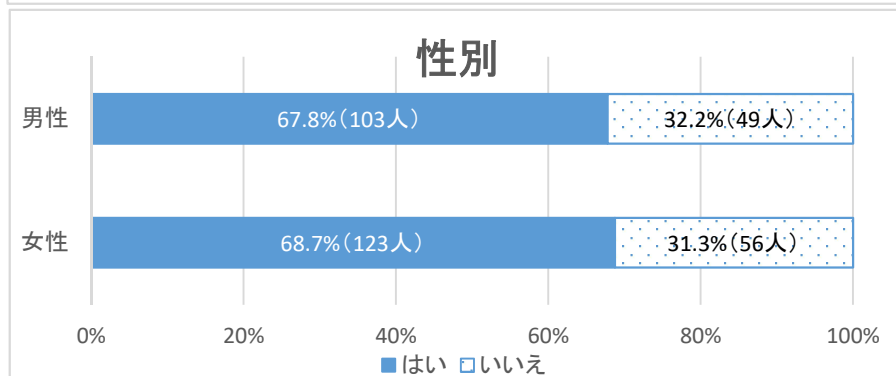
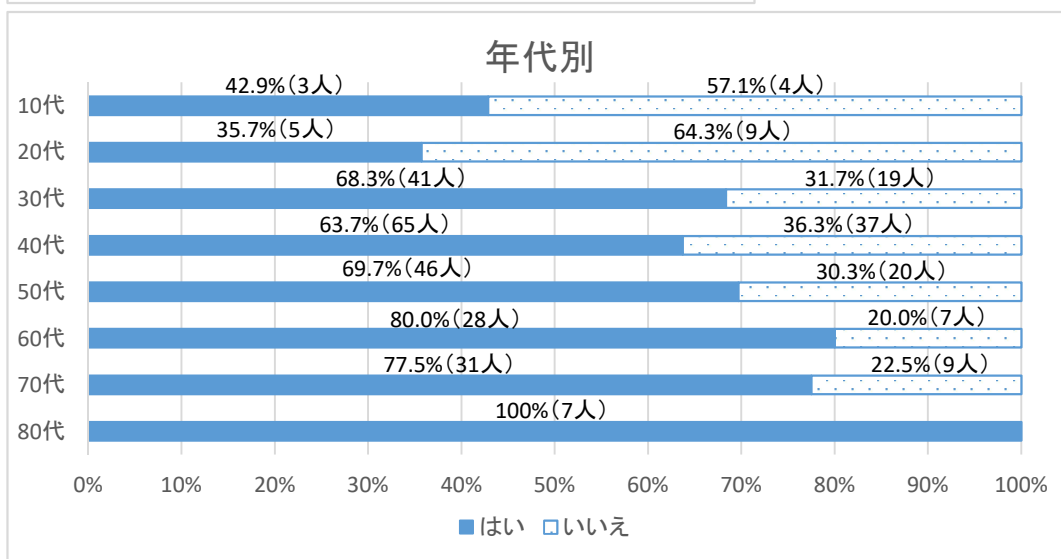
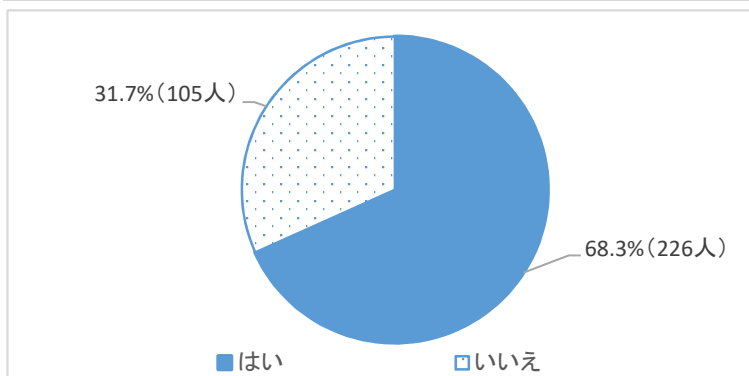
（回答者：331人）



健康維持のための食生活を心がけている人は、全体の82.8%であった。
 年代別では、80代の100%が最も高く、20代の64.3%が最も低い。10代は85.7%であるが、20代～80代では、年齢が上がる毎に食生活を心がけている方の割合が多くなっている。
 性別では、男性が女性より2.6ポイント高い。
 前回調査では「食生活を心がけている」の回答が81.1%で今回1.7ポイント増加した。

問 11 食事の時に食べ方（よく噛む、食べる順番など）を意識していますか？
（1つ選択）

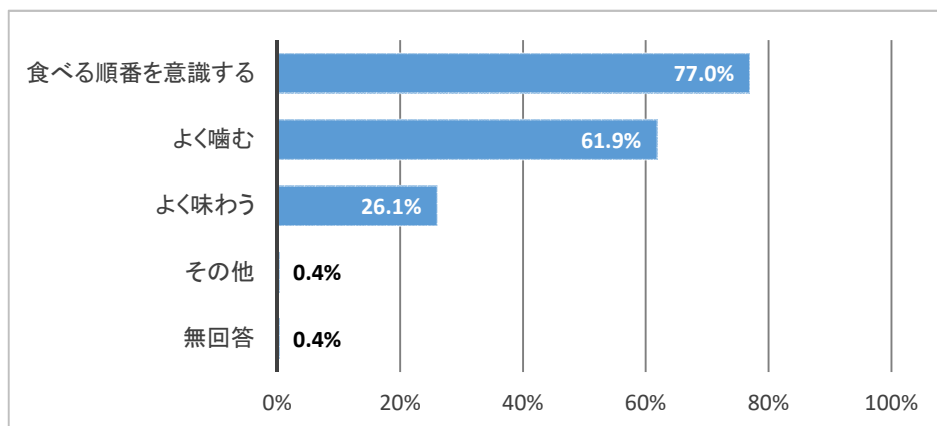
（回答者：331人）



食事の時の食べ方について、全体の68.3%が「食べ方を意識している」と回答した。年代別では、80代の100%が最も高い。30代～70代は60～80%程度であるのに対し、10代・20代では30～40%程度と低い。
性別では、「食べ方を意識している」と回答した方は、女性が男性よりも0.9ポイント高い。
前回調査では「食べ方を意識している」の回答が56.7%で、今回11.6ポイント増加した。

問 12 問11で「はい」を選択した方にお尋ねします。
どのようなことを意識していますか？（複数回答可）

（回答者：226人）



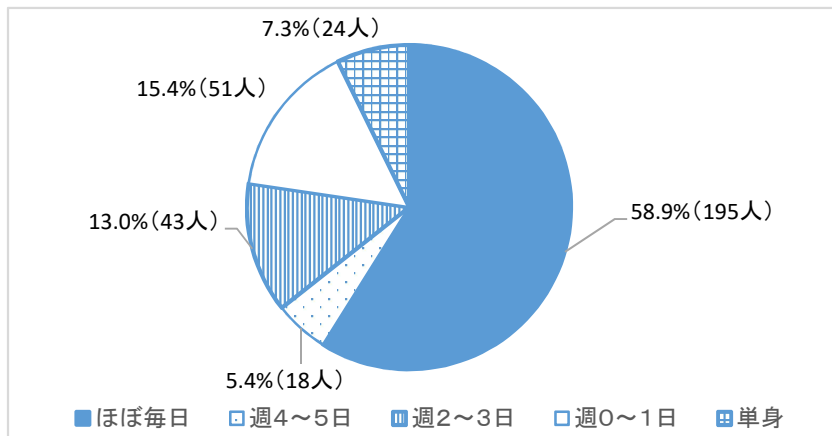
※「その他」を選択した方の意見

・旬の食材を活きが良いうちに食す。

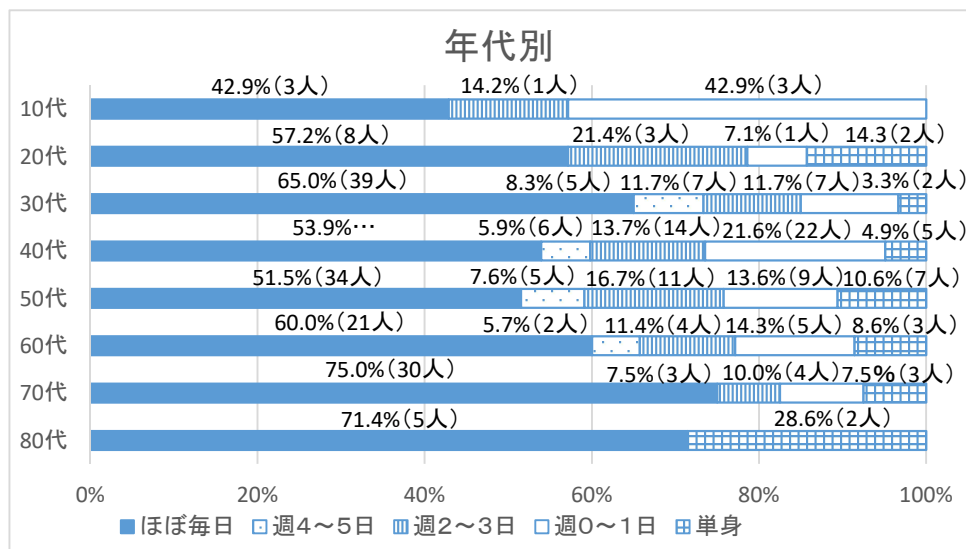
選択肢	回答数
食べる順番を意識する	174
よく噛む	140
よく味わう	59
その他	1
無回答	1

問11で「はい」を選択した方が意識している内容は、「食べる順番を意識する」の77.0%が最も高く、次いで「よく噛む」の61.9%であった。

問 13 家庭生活の状況が多様化する中で、共食（※）の 機会の確保が課題となっています。
朝食を家族と一緒に食べる頻度はどれくらいですか？（1つ選択）（回答者：331人）



※家族や友人など誰かと食事を共にすること。



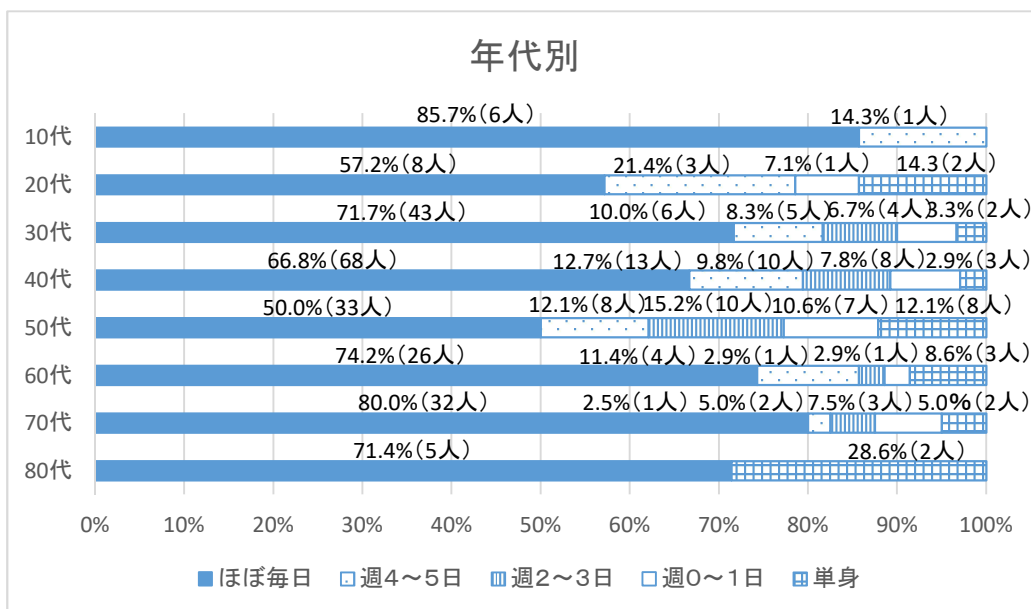
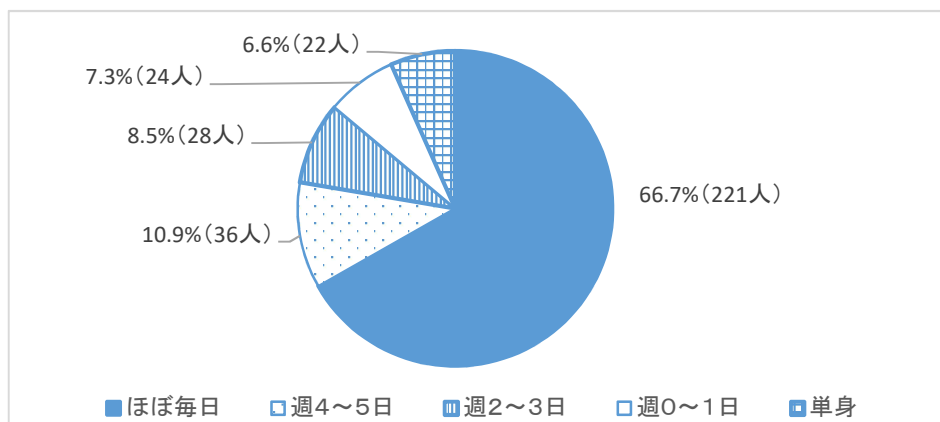
朝食を家族と一緒に食べる方は、全体の58.9%が「ほぼ毎日」、5.4%が「週4～5日」と回答した。

年代別では、「ほぼ毎日・週4～5日」を併せると、70代の75.0%が最も高く、次いで30代の73.3%であった。また、「週0～1日」と回答した方は、10代の42.9%で最も高く、「単身」は80代の28.6%で最も高い。

前回調査では「週4日以上」朝食を家族と一緒に食べると回答した方が60.8%で、今回3.5ポイント増加した。

問 14 夕食を家族と一緒に食べる頻度はどれくらいですか？（1つ選択）

（回答者：331人）



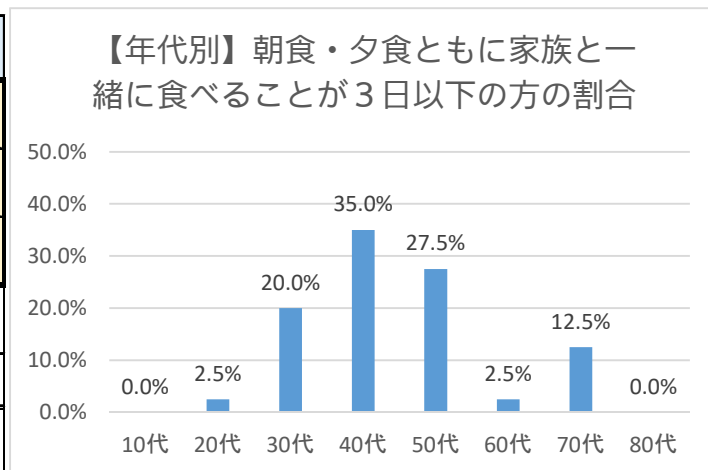
夕食を家族と一緒に食べる方は、「ほぼ毎日」で全体の66.7%、「週4～5日」で10.9%であった。

年代別では、「ほぼ毎日・週4～5日」を併せると10代の100%で最も高く、次いで60代の85.6%である。「週0～1日」と回答した方は、50代の10.6%で最も高く、次いで40代の7.8%であった。

前回調査では「週4日以上」夕食を家族と一緒に食べると回答した方は84.5%で、今回6.9ポイント減少した。

《問13・問14のまとめ》

問13	問14	回答数	割合
ほぼ毎日 週4～5日	ほぼ毎日 週4～5日	201	60.7%
ほぼ毎日 週4～5日	週0～1日 週2～3日	53	16.0%
週0～1日 週2～3日	ほぼ毎日 週4～5日	40	12.1%
週0～1日 週2～3日	週0～1日 週2～3日	11	3.3%
単身	単身	26	7.9%
合計		331	100%



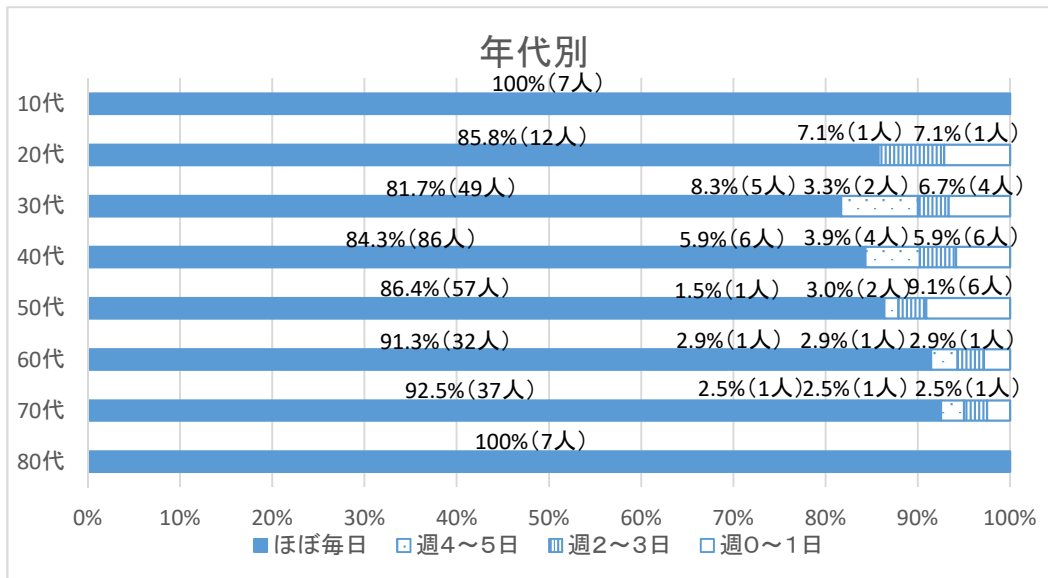
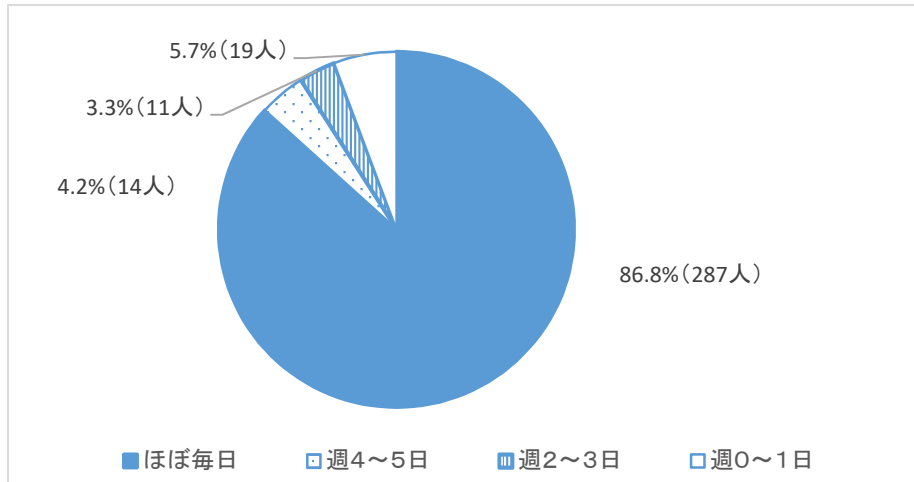
問13と問14の回答を併せてみると、全体の88.8%が朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べると回答した。

朝食・夕食ともに3日以下の方は全体の3.3%であるが、年代別で見ると30代～50代の働き盛りの世代が高い。

朝食または夕食を週4日以上と回答した方は、計画の目標値である90%に近い値であった。また、朝食・夕食ともに週3日以下と回答した方の中では30～50歳代の方が多く、特に働き盛りの世代に対する働きかけが必要である。

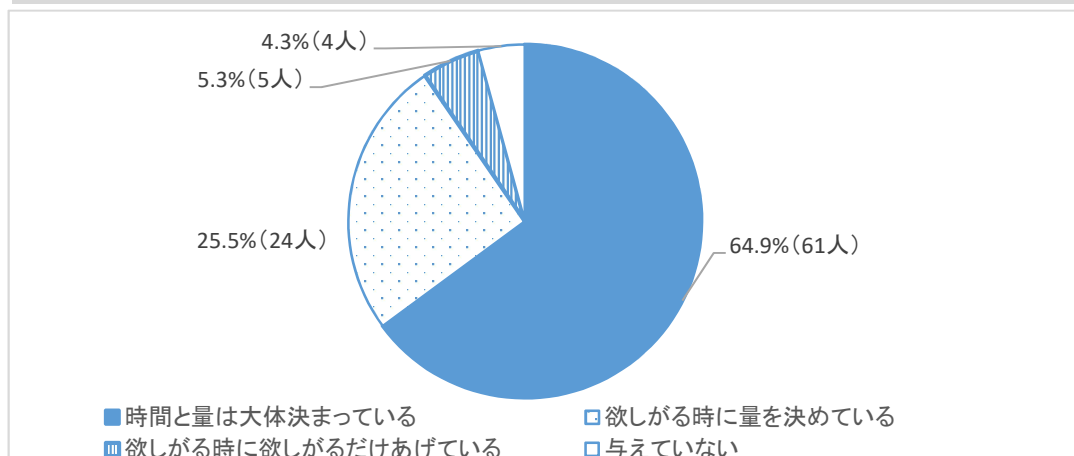
問 15 朝食を毎日とっていますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



朝食を食べる頻度は、全体の86.8%が「ほぼ毎日」と回答した。
 年代別では、「ほぼ毎日」食べる方は10代・80代の100.0%が最も高く、次いで70代の92.5%である。また、30代の81.7%が最も低い。さらに「週0~1日」と回答した方は、50代の9.1%で最も高く、次いで20代の7.1%であった。
 前回調査では「ほぼ毎日」の回答が83.5%で、今回3.3ポイント増加した。

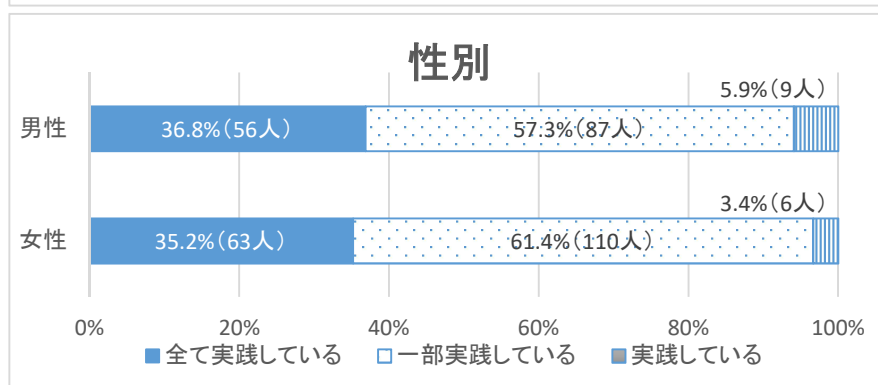
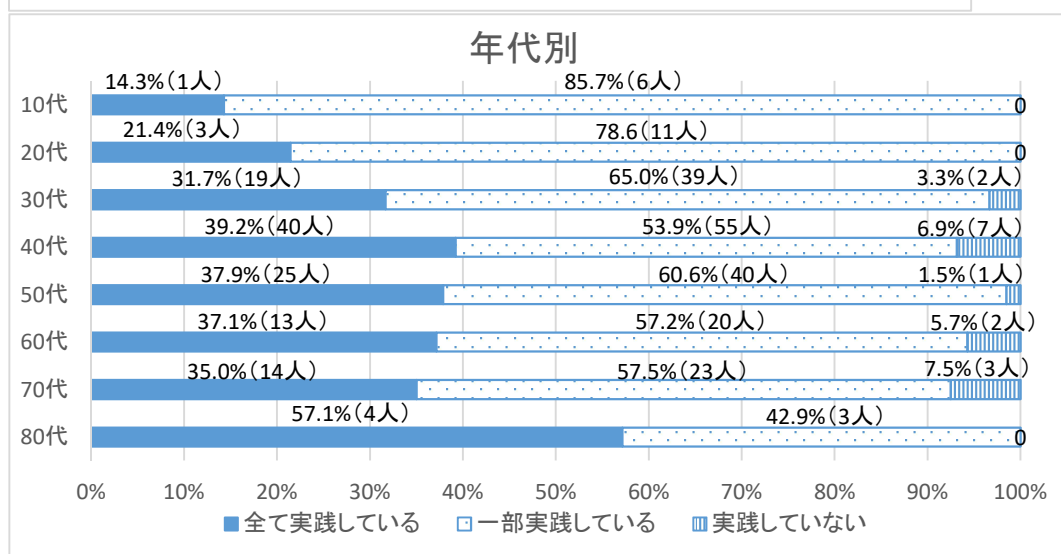
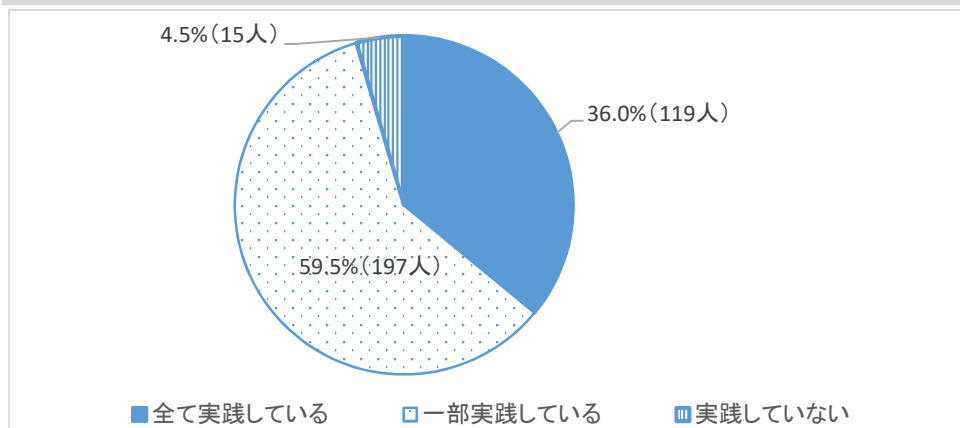
問 16 就学前のお子さんと同居している方にお尋ねします。
 子どもに時間と量を決めておやつを与えていますか？（1つ選択）
 （回答者：94人）



就学前のお子さんへのおやつとの与え方は、全体の64.9%が「時間と量は大体決まっている」と回答し、25.5%が「欲しがる時に量を決めている」と回答した。全体の90.4%の方が、時間または量について決めておやつを与えていると回答した。
 前回調査では「時間と量は大体決まっている」の回答が56.3%で、今回8.6ポイント増加した。

問 17 食事のマナー（あいさつ・食事の仕方、作法、食べ残しをしない）を実践していますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



食事のマナーについては、全体の36.0%が「全て実践している」と回答し、59.5%が「一部実践している」と回答した。

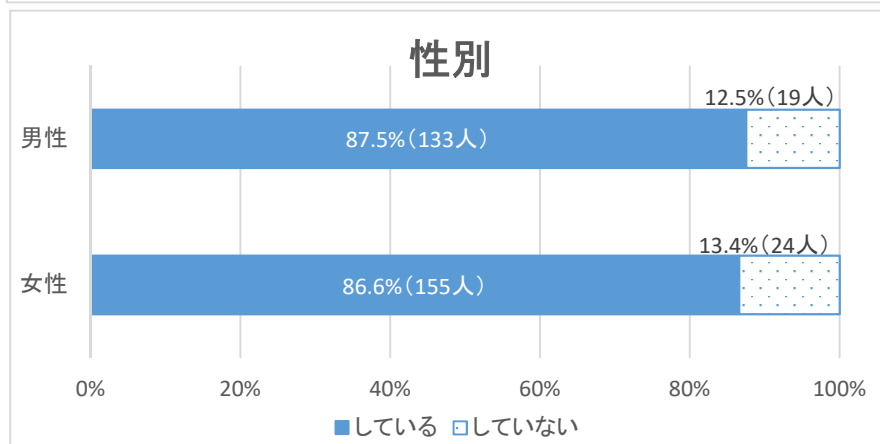
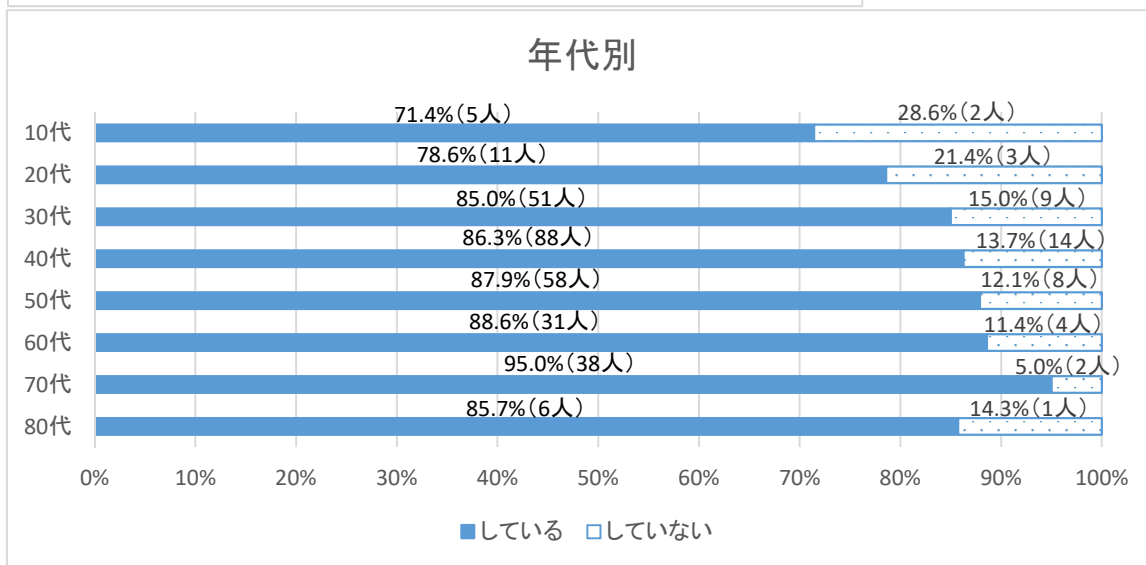
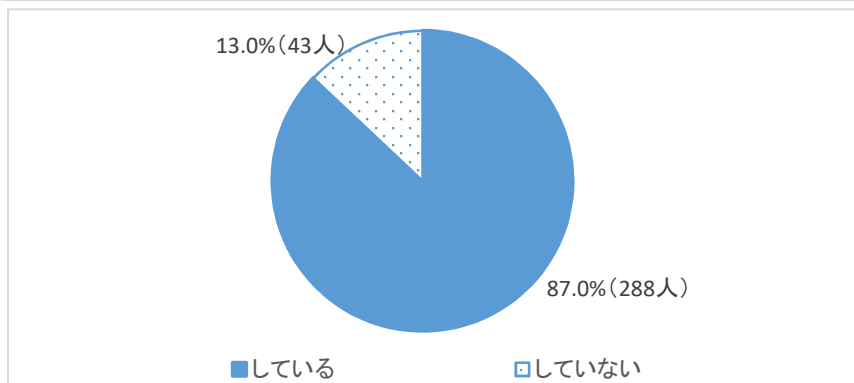
年代別では、「全て実践している」と回答した方は80代の57.1%が最も高い。また、「全て実践している・一部実践している」を併せると、10代・20代・80代での100.0%が最も高く、30代～70代でも90%以上の方が実践していると回答した。

性別では、「全て実践している」では男性が女性より1.6ポイント高い。また、「全て実践している・一部実践している」を併せると、女性が男性より2.5ポイント高い。

前回調査では「全部実行している」「一部実行している」の回答が併せて96.2%で、今回0.7ポイント減少した。

問 18 買いすぎ、作りすぎに気をつけて、食品の廃棄が少なくなるよう実践していますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



食品の廃棄を少なくする取組みについては、全体の87.0%の方が実践「している」と回答した。

年代別では、実践「している」と回答した方では70代の95.0%が最も高く、10代の71.4%が最も低い。10代～70代では、年齢が低くなる程実施「している」と回答した方の割合が低くなっている。

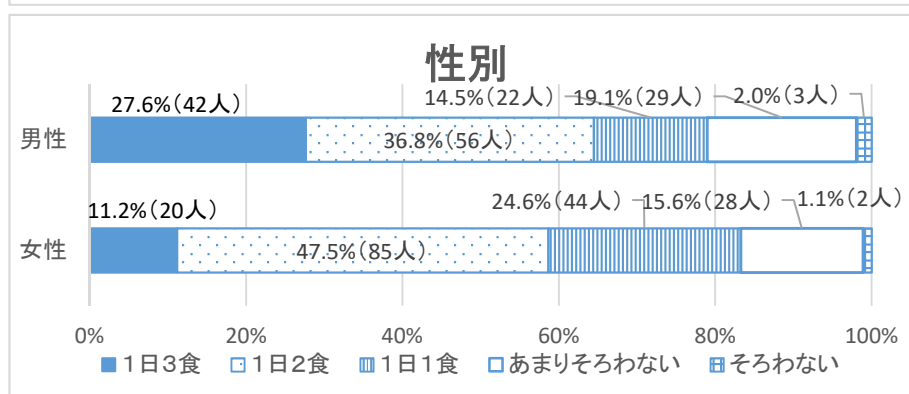
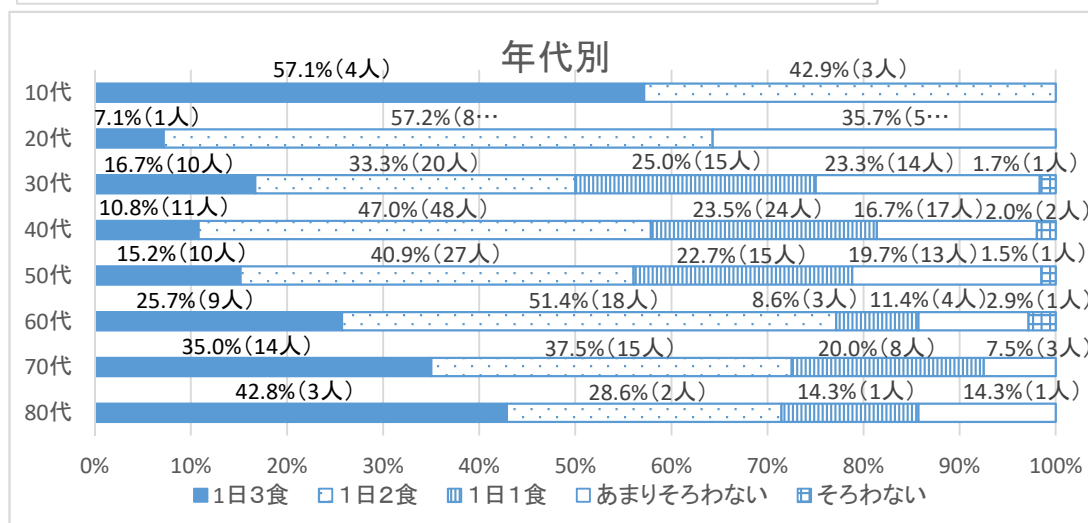
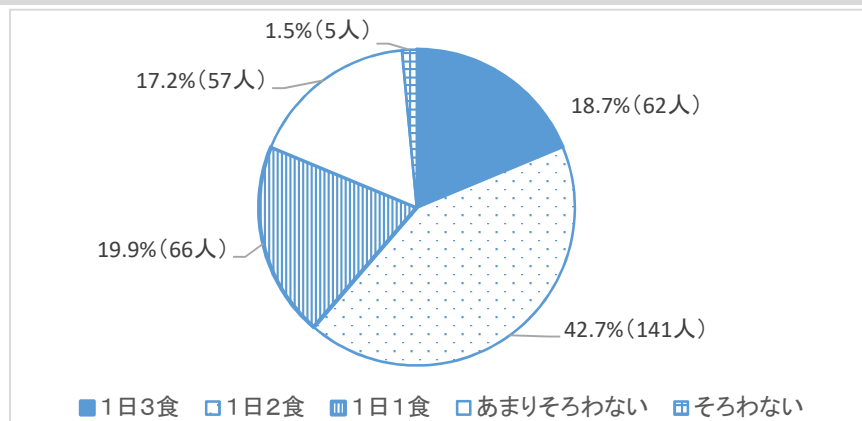
性別では、男性が女性より0.9ポイント高い。

前回調査では「実践している」の回答が84.5%で、今回2.5ポイント増加した。

第3章 食事内容について

問 19 バランスのよい食事《主食（ごはん、パン、めん）》・《主菜（肉・魚・卵・大豆製品のおかず）》・《副菜（野菜のおかず）》がそろそろ食事をしていきますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



バランスのよい食事については、全体の18.7%が「1日3食」と回答し、42.7%が「1日2食」と回答した。

年代別では、「1日3食」と回答した方は10代の57.1%で最も高く、20代の7.1%で最も低い。また、「1日3食」「1日2食」を併せると10代の100%が最も高く、次いで60代の77.1%であった。

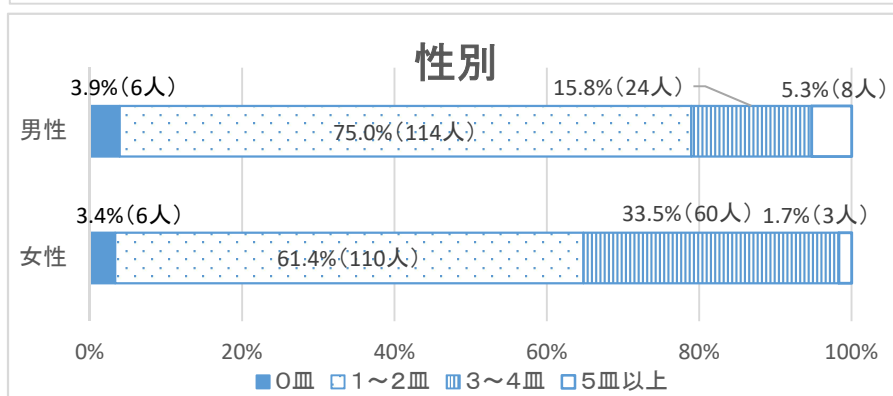
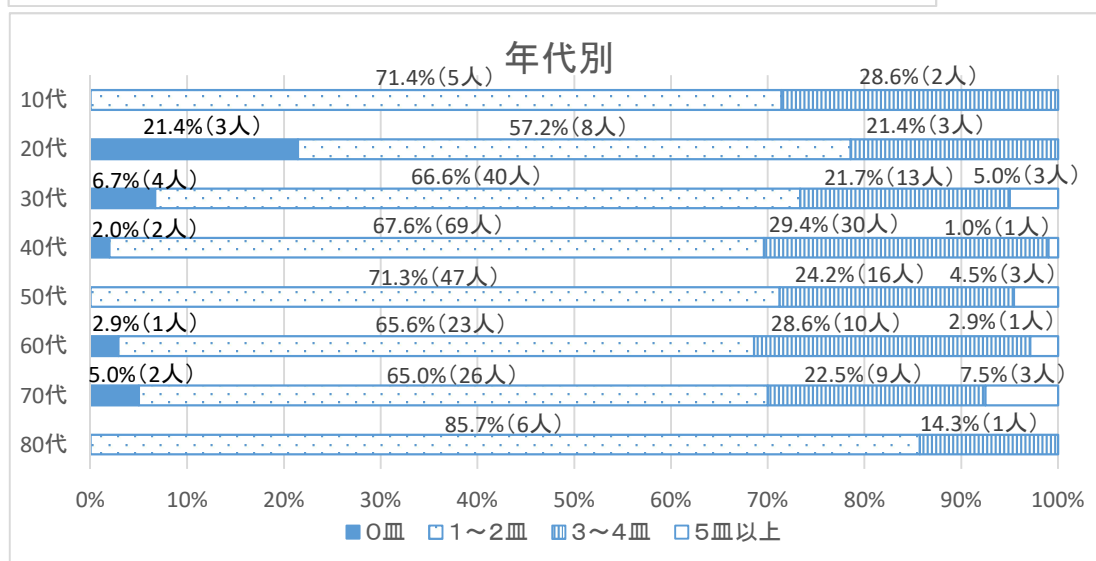
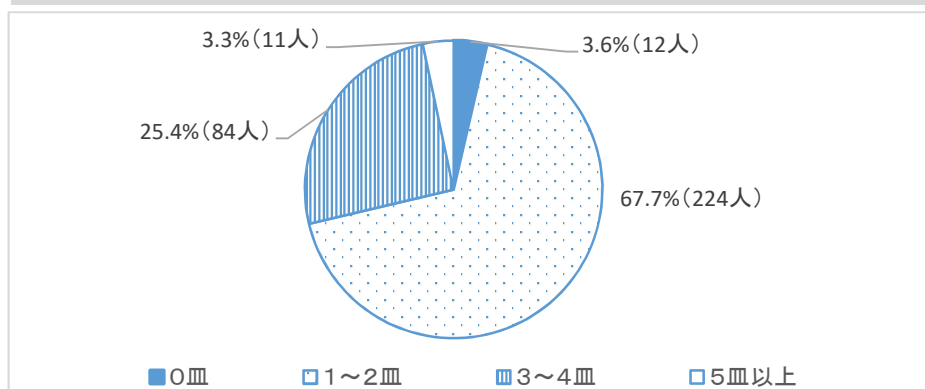
性別では、「1日3食」または「1日2食」と回答した方を併せると、男性で64.4%、女性で58.7%と男性が女性より5.7ポイント高い。

前回調査では「1日2食以上」の回答が51.5%で、今回9.9ポイント増加した。

問 20 野菜の摂取についてお尋ねします。1日にどの位、野菜を食べていますか？
(1つ選択)

※皿の数え方 1皿の目安=小鉢1皿(約70g)

(回答者: 331人)



1日の野菜の摂取量については、全体で67.7%の「1~2皿」が最も高く、次いで25.4%の「3~4皿」である。「0皿」と「5皿以上」は、共に3%台であった。

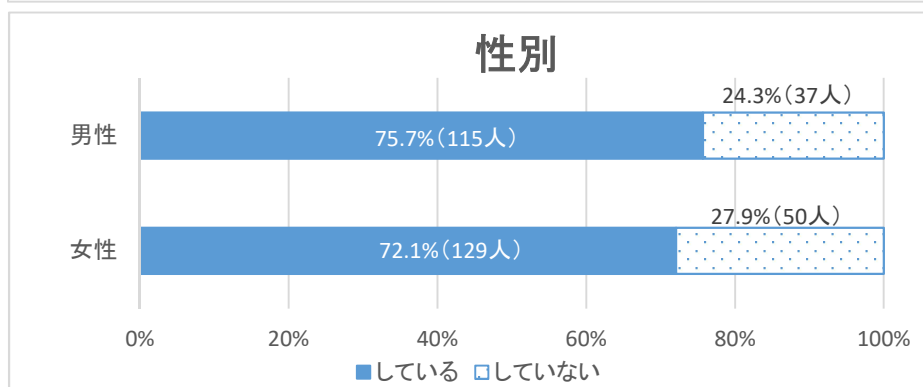
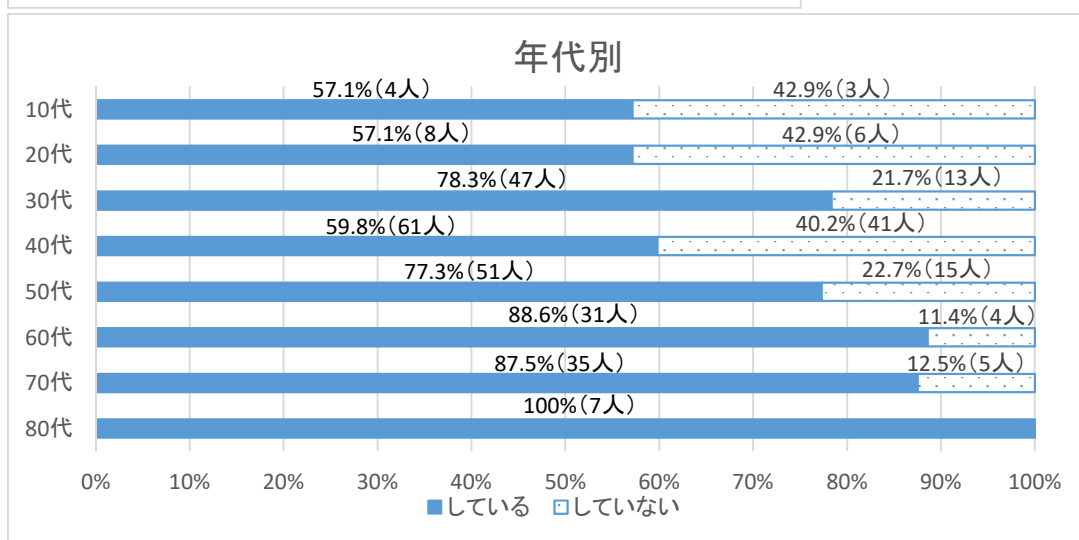
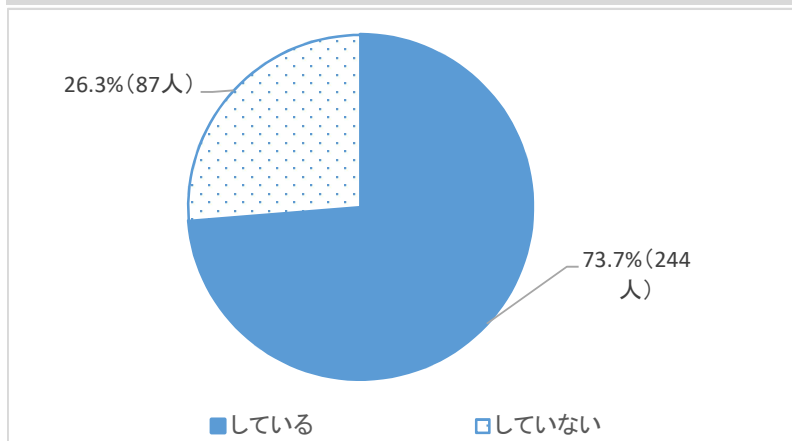
年代別では、「0皿」と回答した方では20代の21.4%が最も高く、次いで30代の6.7%であった。

性別では、「1~2皿」と回答した方は男性が女性より13.5ポイント高く、「3~4皿」と回答した方は男性が女性より17.7ポイント高く、「5皿以上」と回答した方は男性が女性より3.6ポイント高い。

前回調査では1日に「5皿以上」の回答が1.7%で、今回1.6ポイント増加した。1日に1皿以上食べていると回答した方は95%以上であったが、1日の目標量とされている350gに値する「5皿以上」を食べている方は低い値であることから、更なる周知啓発が必要である。

問 21 塩分を取り過ぎないように意識していますか？ (1つ選択)

(回答者：331人)



塩分の摂取については、全体で73.7%が取り過ぎないように意識「している」と回答した。

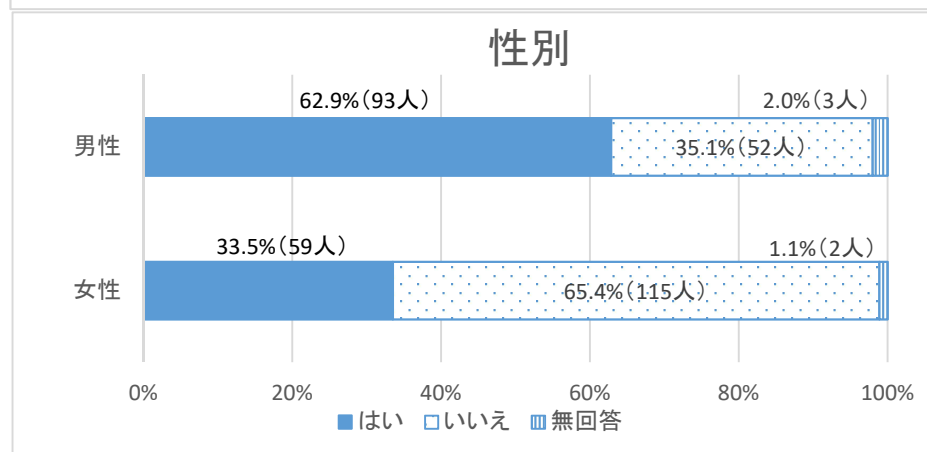
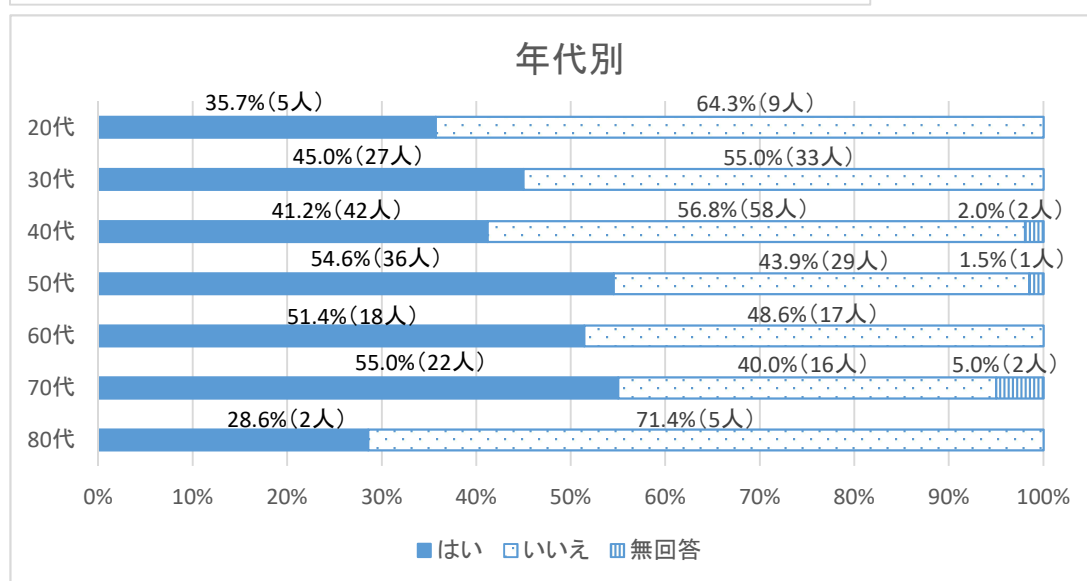
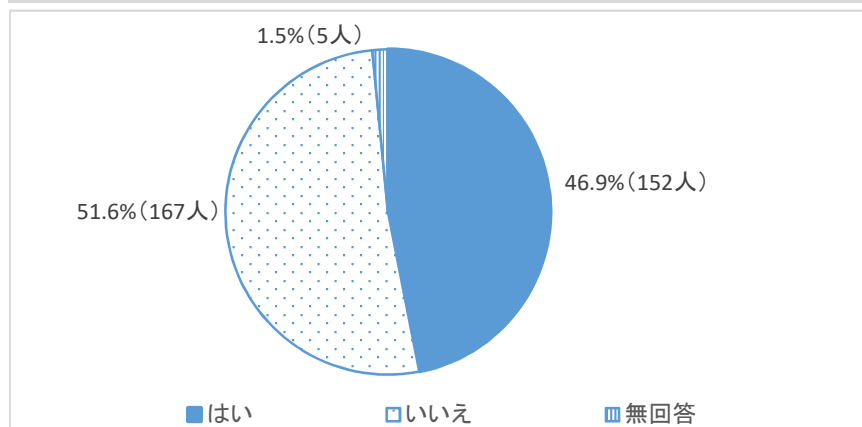
年代別では、意識「している」と回答した方は80代の100%が最も高く、次いで60代の88.6%となっている。また、30代では78.3%であるが、10代・20代で57.1%、40代で59.8%と全体と比較すると若年層で低い傾向にある。

性別では、取り過ぎないように意識「している」と回答した方は、男性が女性より3.6ポイント高い。

前回調査では意識「している」の回答が78.3%で、今回4.6ポイント減少した。

問 22 20歳以上の方にお尋ねします。定期的に飲酒をしていますか？（1つ選択）

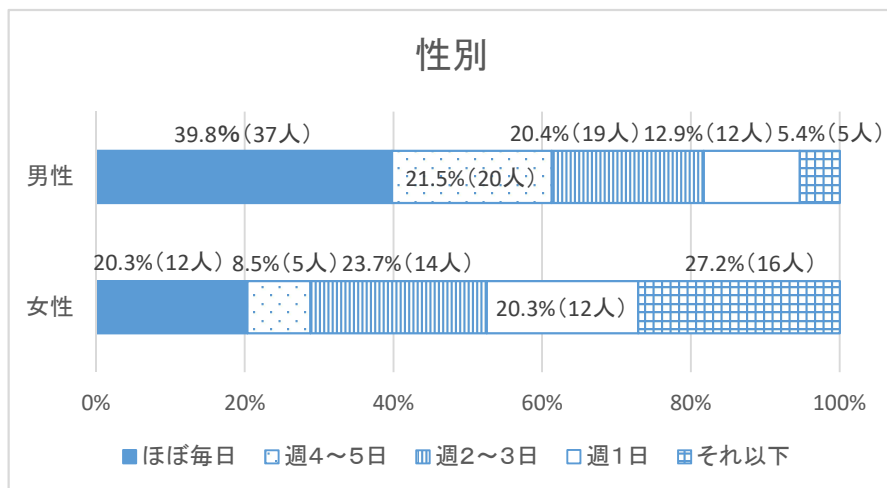
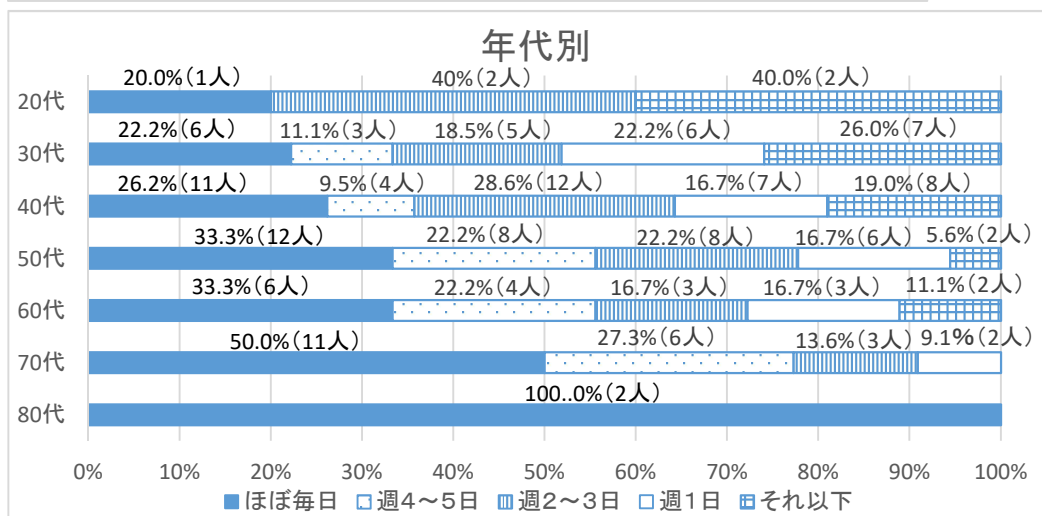
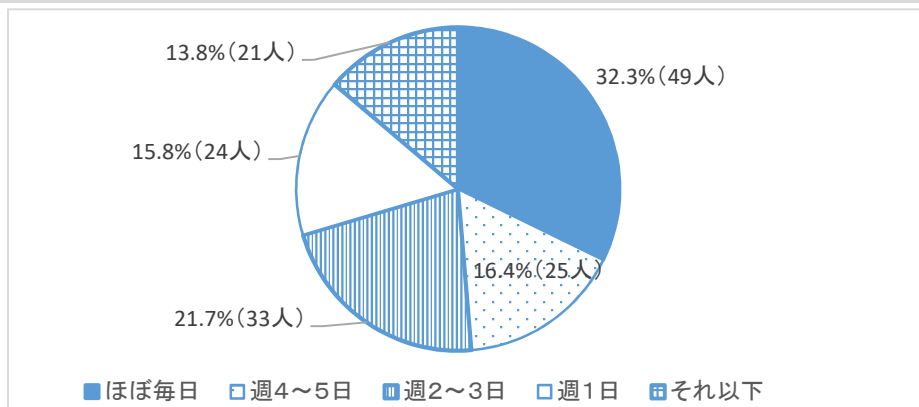
（回答者：324人）



定期的な飲酒をしているかについては、全体の46.9%が「はい」と回答した。年代別では、「はい」と回答した方では70代の55.0%が最も高い。また、50代～70代では50%以上と高い傾向にある。性別では、「はい」と回答した方は男性が女性より29.4ポイント高く、女性よりも男性の方が飲酒の習慣を持つ方が多い。前回調査では「はい」の回答が46.1%で、今回0.8ポイント増加した。

問 23 問22で「はい」を選択した方にお尋ねします。
週にどのくらいの頻度で飲酒をしますか？（1つ選択）

（回答者：152人）

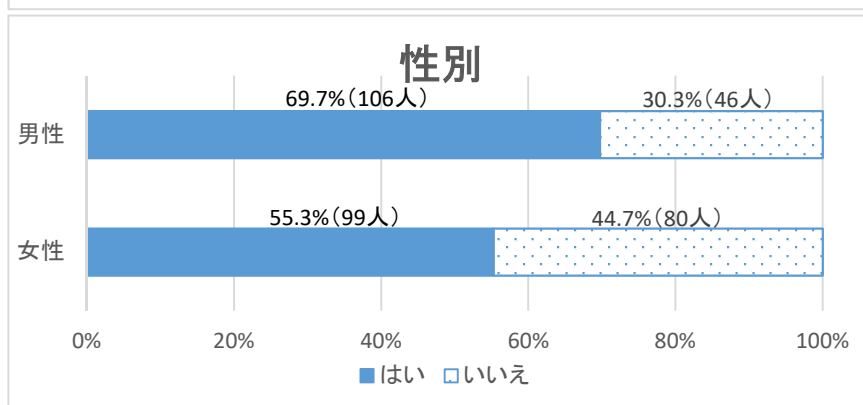
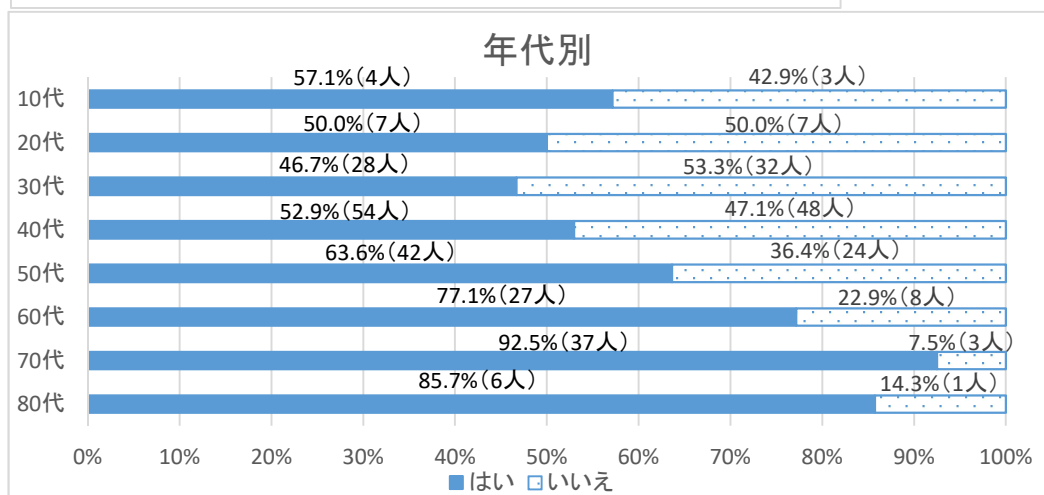
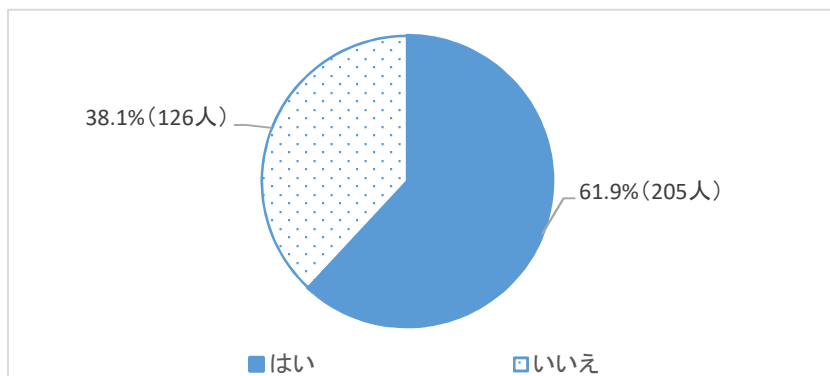


問22で「はい」を選択した方の飲酒の頻度は、「ほぼ毎日」と回答した方が全体の32.3%で最も高く、次いで「週2~3日」の21.7%であった。
年代別では、「ほぼ毎日」と回答した方は80代の100%で最も高く、次いで70代の50%であった。また、「週4~5日」と回答した方は70代の27.3%で最も高く、次いで50代・60代の22.2%であった。
性別では、男性では「ほぼ毎日」と回答した方が39.8%で最も高く、次いで「週4~5日」の21.5%であった。女性では、「それ以下」と回答した方が27.1%で最も高く、次いで「週2~3日」の23.7%であった。飲酒習慣のある方においては、男性は女性よりも頻度が高い傾向が見られた。

第4章 生活習慣について

問 24 健康維持のため運動することを心がけていますか？（1つ選択）

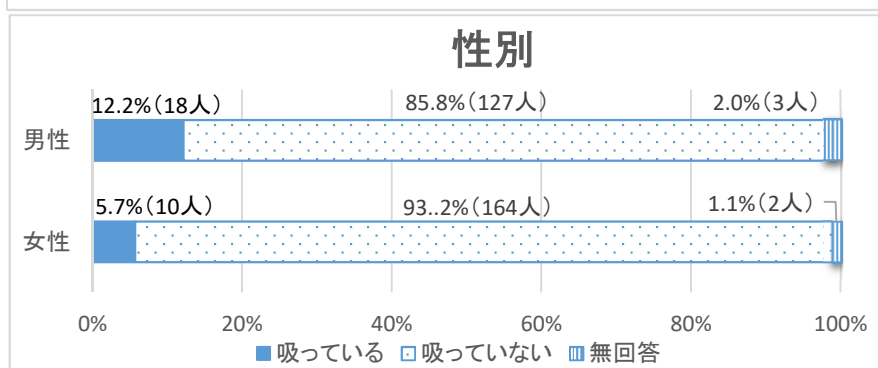
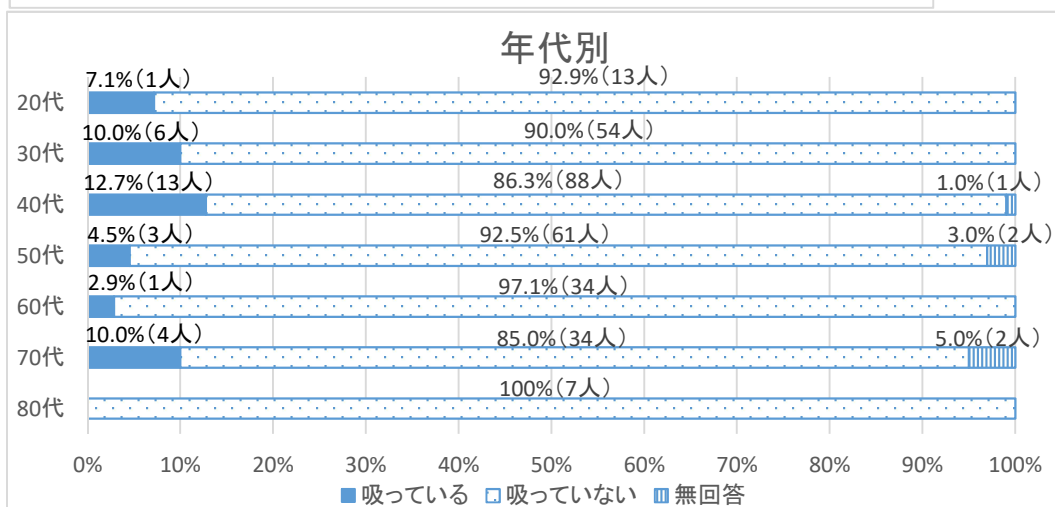
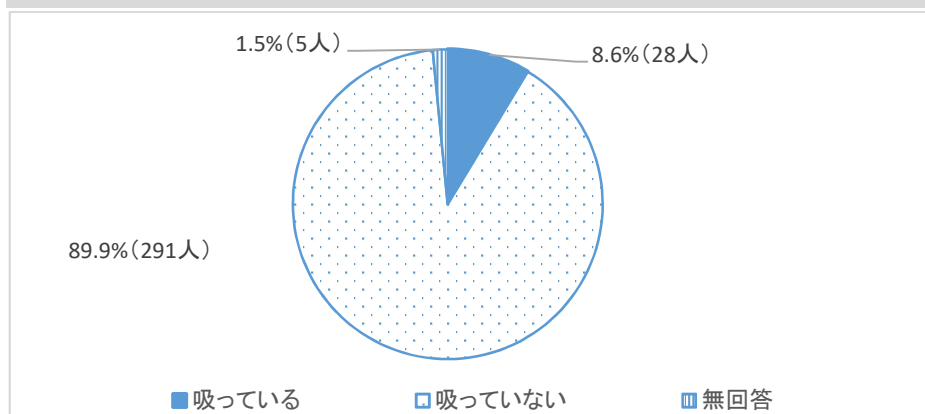
（回答者：331人）



健康維持のための運動については、全体の61.9%が「心がけている」と回答した。
 年代別では、運動を心がけている方は、70代の92.5%が最も高く、30代の46.7%が最も低い。全体の傾向をみると、最も低い30代から最も高い70代まで、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。
 性別では、運動を心がけている方は、女性より男性は14.4ポイント高い。
 前回調査では「心がけている」の回答が58.8%で、今回3.1ポイント増加した。

問 25 20歳以上の方にお尋ねします。
たばこを吸っていますか？ (1つ選択)

(回答者：324人)



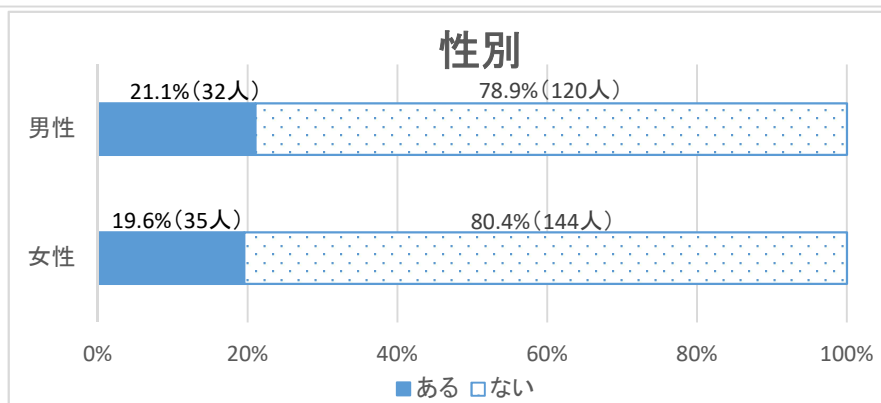
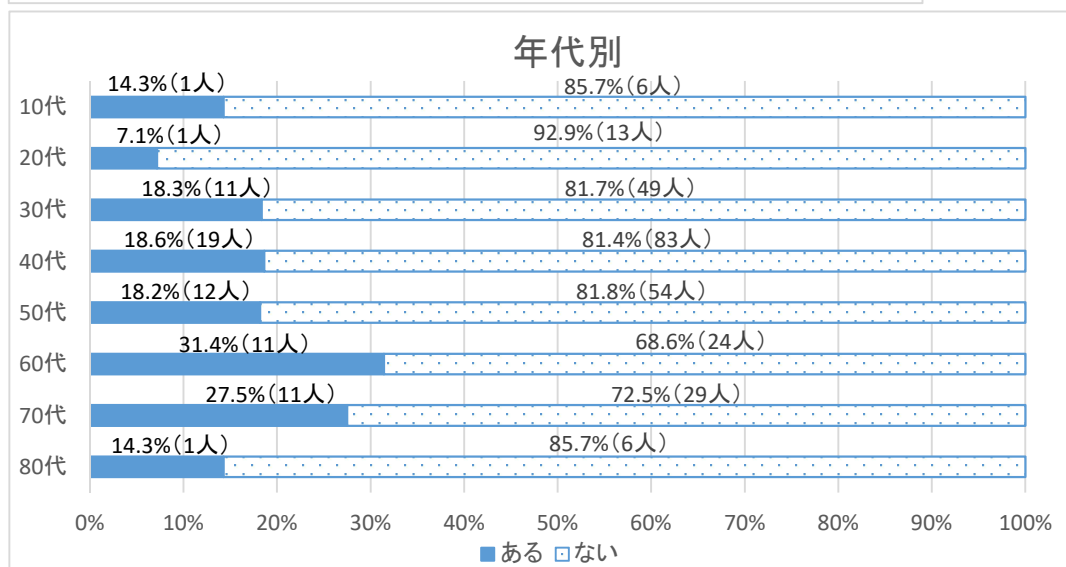
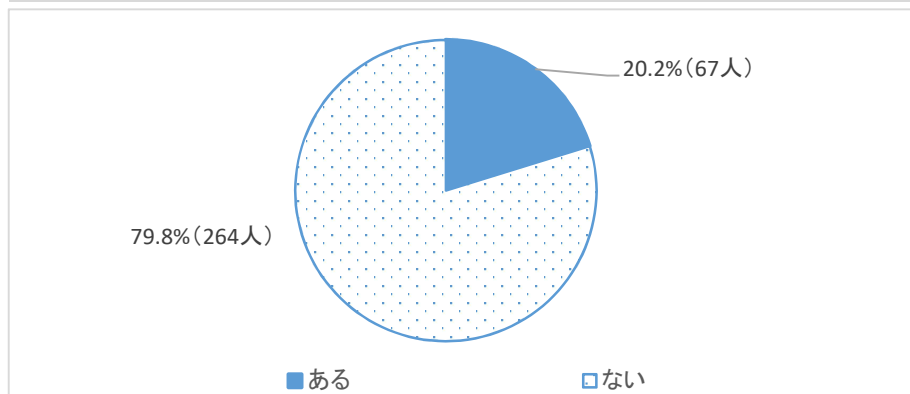
喫煙については、全体の89.9%の方が「吸っていない」と回答した。
年代別では、「吸っている」と回答した方では、40代の12.7%が最も高く、次いで30代・70代が10.0%であった。
性別では、「吸っている」と回答した方は、女性より男性は6.5ポイント高い。
前回調査では「吸っていない」の回答が91.8%で、今回1.9ポイント減少した。

第5章 その他

問 26 今までに収穫体験やグリーンツーリズム（※）などの農林漁業体験を経験したことがありますか？（1つ選択）

※農山漁村地域において、自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

（回答者：331人）



農林漁業体験については、全体の20.2%の方が経験が「ある」と回答した。年代別では60代の31.4%が最も高く、次いで70代の27.5%であった。また、20代の7.1%が最も低い。

性別では、経験が「ある」と回答した方では、女性より男性は1.5ポイント高い。前回調査では経験が「ある」の回答が30.9%で、今回10.7ポイント減少した。

問 27 「第三次郡山市食育推進計画」について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

食育（計画）の認識について

- ・ 食育推進計画（何をどのように計画し、活動したのか）が伝わってこない。もう少し、PDCAを含め周知したほうが良いと思う。（50代・女性）
- ・ あまり耳にすることが無いのでもう少しアピールして欲しい。（10代・男性）
- ・ 食育という言葉は知っているが、郡山市の取り組みや推進計画についてはあまり良く分からない。（40代・男性）
- ・ 食育推進計画の内容が分からない。郡山市の食育計画を知る機会が不十分である。（60代・男性）

食育推進のために必要なこと

- ・ 食育の日は初めて知った。食育のイベントや講演など気軽に参加できるものがあれば良い。（40代・女性）
- ・ 食育という言葉は知っていたが、「食育の日」は知らなかった。誰もが関係する事であるにも関わらず、意外に定着できていないので、もっと行政なども食育について取りあげてほしい。（40代・女性）
- ・ バランスのよい食事や運動が良いとわかっているが、時間がない・方法がわからない人のために、簡単な講座などの機会を増やしてほしい。（50代・女性）
- ・ 小さな頃から正しい知識を持つようになれば、健康寿命の延伸、医療費の削減等、誰もが心身ともに元気で過ごせるようになるのではないかと。（40代・女性）
- ・ 小学生だけでなく、中学生や高校生に食育をして欲しい。公民館などでの食育講座があれば、もっと多くの人に知って貰えると思う。（60代・女性）
- ・ 毎日家族の健康を考えて料理を作っているが、子どもたちは自分の好きな物だけ食べて終わってしまう。小さい時からの食育への興味は大切だと思う。（30代・女性）

食育の取組みについて

- ・ 家族の職業柄、グリーンツーリズムの民間企画を目にすることが多い。今は子どもが小さすぎるので難しいが、今後は家族で参加したいと思う。（30代・女性）
- ・ 子どもが小さい頃は食事を気にかけていたが、社会人になり、生活リズムが揃わず、気にしない生活になった。（40代・女性）
- ・ 収穫体験とマルシェ（市場）を併せたイベントを開催して欲しい。取れたて野菜を使用した料理教室もその場で出来たら嬉しい。（40代・女性）
- ・ 外食の際、塩分表示のある店があると有難い。食品栄養成分表示の書き方がまちまちであり、購入時の比較が不便である。（70代・男性）
- ・ 郡山市は農業県であり、米や鯉、逢瀬ワイナリー等を中核に食育を積極的にアピールし市民参加型の食育推進計画を作成し明るい郡山市にしていきたい。（70代・男性）

その他

- 子どもの肥満対策を積極的にやってほしい。(30代・女性)
- 引っ越ししてきた当初は、外食店がしょっぱい店が多いと感じたが、今は慣れてしまった。気付かないうちに塩分を多く摂取しているかもしれないと思った。(30代・男性)
- 農家でなければ、米や野菜を作る事が全く分からない場合が多いと思う。稲作、畑作の講座の企画があれば、特に親子連れで参加する人が多いのではないか。(40代・男性)
- 市民が食を考えることによって、より健康に生活できるようになれば良いと思う。
(40代・男性)
- 食材を育む太陽と大地に感謝。食材に感謝。食事を作る人に感謝。(70代・男性)